

一般財団法人 黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

Hirosaki Stroke and Rehabilitation Center

年報

第4号

2016.4～2017.3



一般財団法人 黎明郷 理念

質の高い医療・リハビリテーションを実践し、
地域社会の保健医療福祉に貢献します。

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 基本方針

- ◆地域に開かれた病院として脳卒中医療に貢献します。
- ◆活発な地域連携（病病連携・病診連携）を展開します。
- ◆最新かつ最適な医療とリハビリテーションを提供します。
- ◆チーム医療により自立への支援に努めます。
- ◆安全に配慮し、快適な入院環境作りを目指します。
- ◆最新の脳卒中医療情報を発信します。

目 次

巻頭言	院 長 保 嶋 実	1
施設概要・沿革		2
機構図		3
役員名簿（理事・監事）		4
評議員名簿		5
職員数		6
診療実績（入院患者数等、検査件数）		7
脳ドック・訪問リハビリ実績		9
研修認定施設		10
専門医数		11
治験実績		12
実習受入状況		13
財団事業		14
青森県高次脳機能障害支援拠点機関		14
青森県成人・老人リハビリテーション施設協会		15
脳卒中市民公開講座		16
黎明郷リハビリテーションケア勉強会		17
財団創立 50 年誌制作		18
学術報告		22
学会発表		22
依頼講演		26
論文		29
委員会報告		31
医療安全委員会		31
院内感染防止対策委員会		35
栄養管理委員会		38
褥瘡対策委員会		40
臨床検査適正化検討委員会		42
薬事審議委員会		43
電子保存システム管理委員会		46
D P C コーディング委員会		48
倫理委員会		49
衛生委員会		52
部署代表者委員会		54
教育研修委員会		56
施設運用委員会		58
広報委員会		60
患者サービス委員会		62
N S T		64
I C T		66
脳ドックワーキンググループ		72
口腔ケアワーキンググループ		73
編集後記	広報委員長（副院長） 岩田 学	75

巻 頭 言

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 院 長 保 嶋 実

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター年報第4号（平成28年度）が予定より若干遅れましたが、発刊の運びとなりました。

平成28年度はセンターの運営母体であります財団法人黎明郷（平成25年4月からは一般財団法人黎明郷）創立50周年の節目の年でありました。慣例に倣い、創立50年誌を刊行致しました。地域自治体、医師会、弘前大学など縁の皆様から御寄稿をいただき、地域医療に貢献する伝統と揺るぎない実績を誇らしく感じた次第であります。同時に地域の皆様からの信頼と期待を確かなものにするため、センターの機能向上を図ることを改めて決意する機会ともなりました。

弘前脳卒中・リハビリテーションセンターとしてスタートして6年目の平成28年度は、診療実績の入院患者数の示す通り、病床稼働率の低迷特に回復期病棟の低下が深刻で、年度末まで厳しい病院運営を強いられました。行政主導の地域医療構想推進に伴う医療圏域を超えての入院患者の激減、地域における包括ケア病棟の整備などが主な要因であり、地域における医療環境の変化の影響を諸に受けました。回復期病棟運営の戦略の転換が迫られ、課題を抱えた年でありました。一方、検査件数、脳ドック受診者数、訪問リハビリ件数などその他の診療実績は概ね前年通りに推移しております。脳血管内治療の頸動脈ステント留置術は、担当医師が国内留学から戻り、手術件数や検査件数も着実に増加しております。また、脳卒中専門医6名含めて脳卒中関連領域の専門医は21名であり、脳卒中専門病院としての機能強化を目途に、着実に人材の育成が進められております。また、リハビリテーション医療振興を目的として青森県から委託された事業とともに事務局を務める青森県成人・老人リハビリテーション施設協会の運営、市民公開講座や黎明郷リハビリテーションケア勉強会開催などの社会活動も継続されております。さらに脳卒中学領域の専門誌への論文掲載（欧文誌2編を含む）など、国内外への情報発信も前年と同様に展開されております。

年報に記載されている事項特に数値は現在のセンターの診療や情報発信の現況を示す指標であり、問題点の分析と改善に向けての貴重な資料となるものがあります。今後に向けて、十分に吟味し、活用されることを願っております。

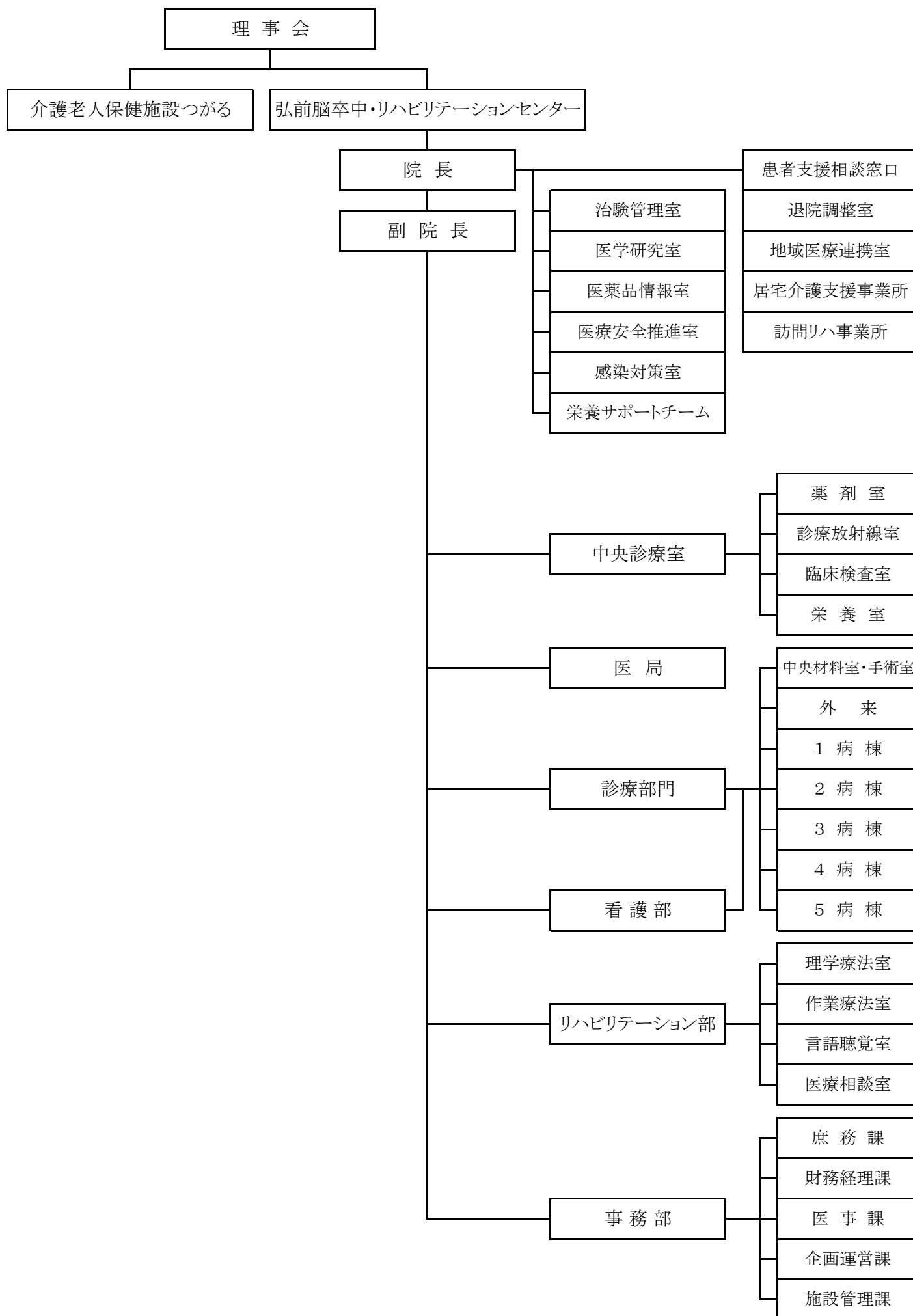
年報の作成を担当した広報委員会の岩田 学 委員長はじめ、各委員諸氏の労に敬意を表したいと存じます。

施設概要

年 月	内 容
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設（145 床） 構造/鉄筋コンクリート造り地上4階 地面積 19,872.80 m² 建築延面積 11,414.94 m² 一般病床 35 床 回復期リハビリテーション病棟 110 床 内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科
平成23年 4月	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター開設（名称変更）（248 床） 構造/鉄筋コンクリート造り地上4階 敷地面積 25,828.95 m² 建築延面積 18,579.55 m² 一般病床 79 床 回復期リハビリテーション病棟 169 床 内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科、歯科
平成25年 4月	診療科目変更 脳・血管内科、循環器内科、内科、脳神経外科、リハビリテーション科、神経内科、放射線科、歯科

沿 革

年 月	内 容
昭和41年 4月	青森県知事より財団法人黎明郷の設立認可
昭和41年 7月	碓ヶ関村より診療所の委託を受け診療を開始（10 床）
昭和42年 4月	黎明郷リハビリテーション病院開設（60 床、昭和 57 年 7 月 248 床）
昭和60年 9月	黎明郷リハビリテーション病院に高血圧センター併設
平成15年 4月	黎明郷リハビリテーション病院に介護老人保健施設つがるを併設
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設（145 床）内科・神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科・整形外科
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設に伴い黎明郷リハビリテーション病院（103 床）となる
平成23年 4月	弘前脳卒中センターと黎明郷リハビリテーションを統合し、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターを開設（248 床） 開設に伴い黎明郷リハビリテーション病院は廃止 碓ヶ関診療所（無床）を開設
平成24年 3月	碓ヶ関診療所廃止
平成25年 4月	一般財団法人へ移行



役員名簿

平成28年6月現在

氏 名	職業又は勤務先	区 分
保嶋 実 (理事)	一般財団法人 黎明郷	理事長
奥村 謙 (理事)	済生会熊本病院心臓血管センター	循環器内科 最高技術顧問(医療)
長内 智宏 (理事)	弘前大学大学院保健学研究科	看護学領域 教授(医療)
玉田 友一 (理事)	玉田内科医院 院長(秀峰会代表)	(医療)
長尾 忠行 (理事)	老健つがる設置地域代表	平川市長(行政)
山田 年伸 (理事)	青森県町村会代表	大鰐町長(行政)
杉山 大幹 (理事)	(株)青森銀行取締役弘前地区統括	(経営)
三浦 康久 (理事)	元青森県健康福祉部長	(行政)
佐藤 陽子 (理事)	元青森県環境生活部長	(行政)
小林 正志 (理事)	一般財団法人 黎明郷	事務局長
鳴海 溜喜子 (監事)	税理士	
鈴木 稔 (監事)	(株)青森銀行弘前支店長	

評議員名簿

平成28年6月現在

氏 名	職業又は勤務先	区 分
吉岡 利忠	弘前学院大学 学長	教育
込山 稔	特別養護老人ホーム 弘前大清水ホーム 施設長	福祉
梅村 芳文	梅村医院 院長	医療（弘前市医師会）
畑山 亨	畑山医院 院長	地域医療
葛西 聡	あすなろ法律事務所 弁護士	学識経験者（法律）
奈良岡 勇造	城東地区	地域代表（福祉）
柳田 光祥	豊田地区町会連合会 会長	地域代表
横山 篤	介護老人保健施設つがる 施設長	医療（介護）
松本 茂男	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長	医療（リハビリ）
鎌田 孝篤	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長	医療（内科）
岩田 学	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長	医療（治験・リハビリ）
三國谷 恵美子	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護部長	看護

職員数

※過去3か年分について掲載

職 種	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
医 師	15	14	14
薬剤師	7	8	9
診療放射線技師	6	6	6
臨床検査技師	7	7	7
理学療法士	54	56	59
作業療法士	58	59	57
言語聴覚士	10	9	9
医療相談員	8	10	10
医療部助手	1	1	1
管理栄養士	2	4	4
看護師	159	169	164
准看護師	19	17	16
看護助手	33	32	35
歯科衛生士	1	1	2
介護支援専門員	1	2	2
事務員	32	35	39
合 計	413	430	430

各年4月1日現在

診療実績 入院患者数

※過去3か年分について掲載

		H26年度	H27年度	H28年度
延患者数（人）		79, 166	80, 537	74, 153
病床数		248	248	248
病床稼働率（％）		87. 4	88. 7	81. 9
平均在院日数（日）	一般病棟	17. 1	17. 7	16. 7
	回復期病棟	68. 9	77. 8	81. 9
新患受入件数（件）	a．救急車	639	648	645
		(31. 5%)	(30. 6%)	(31. 1%)
	b. 直接来院	1, 387	1, 469	1, 428
		(68. 5%)	(69. 4%)	(68. 9%)
※ c．救急車受入のうち入院（件）		533	536	500
(c / a)		(83. 4%)	(82. 7%)	(77. 5%)
一般病棟指標				
在宅復帰率		80. 4%	79. 3%	81. 0%
医療・看護必要度 重症者割合		20. 7%	18. 6%	28. 0%
回復期リハビリテーション病棟指標				
在宅復帰率		80. 4%	82. 8%	78. 7%
新規入棟患者重症者割合〔A項目〕		15. 5%	17. 7%	22. 5%
新規入棟患者重症者割合〔B項目〕		46. 0%	46. 9%	45. 7%
重症患者回復割合（退棟時）		59. 6%	53. 9%	45. 9%
回復期病棟延患者数（人）		55, 720	56, 370	51, 666
実施リハ単位数		371, 260	359, 722	340, 269
一日一人当たりリハ提供単位数		6. 66	6. 38	6. 59
脳卒中地域連携パス適用患者数（H25年9月～）		21	11	0

診療実績 検査件数

※過去3か年分について掲載

		H26年度	H27年度	H28年度
MR I		4,584	4,392	4,344
C T		3,841	4,048	3,895
超音波	頚動脈	1,347	1,321	1,220
	心臓	867	911	898
	経食道心臓	466	446	447
	その他	49	19	5
	合計	2,729	2,697	2,570
A B I（脈波）		979	899	835
ホルター心電図		964	949	905
血管造影	脳血管造影	28	3	38
	頭頸部血管造影	16	12	1
	大動脈造影	—	—	1
	心臓カテーテル検査	10	4	15
	下肢血管造影	—	1	1
	C Vカテ挿入、交換	3	1	1
	ペースメーカー移植・交換術	4	2	—
	頚動脈ステント留置術	10	2	7
	経皮的末梢血管形成術	—	—	1
	選択的脳血栓・塞栓溶解術	—	—	1
	下大静脈フィルタ留置術	1	—	—
	合計	72	25	66
透視下検査	嚥下造影	62	53	47
	C Vカテ修正	1	—	—
	C Vカテ挿入、交換	8	2	7
	胸腔トロッカーカテ挿入	—	—	1
	経鼻胃管チューブ挿入	17	5	20
	上部消化管造影	1	—	—
	透視のみ	3	1	6
	合計	92	61	81
内視鏡	内視鏡下胃瘻造設術	14	—	—
	胃瘻交換	78	35	27
	胃・十二指腸ファイバースコピー	10	7	10
	食道ファイバースコピー	—	1	—
	合計	102	44	37
気管切開術		1	0	1

脳ドック実績

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
26年度	1	6	14	18	12	14	12	12	12	10	6	7	124
27年度	7	2	16	17	8	15	16	13	13	6	7	5	125
28年度	1	4	12	17	15	11	9	10	3	7	8	3	100

※過去3か年分について掲載

訪問リハビリ実績

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
26年度	182	180	154	158	136	166	194	179	185	153	149	152	1988
27年度	171	177	220	241	202	183	203	180	186	178	193	205	2339
28年度	186	184	219	205	216	212	181	183	178	181	169	196	2310

※過去3か年分について掲載

研修認定施設

	認 定 学 会	認 定 期 間
1	日本脳卒中学会認定研修教育病院	2013. 4. 1～2014. 12. 31 2015. 1. 1～2016. 12. 31 2017. 1. 1～2019. 12. 31
2	日本リハビリテーション医学会認定研修施設	2012. 4. 1～2017. 3. 31 2017. 4. 1～2022. 3. 31
3	日本静脈経腸栄養学会N S T稼働認定施設	2014. 4. 1～2019. 3. 31
4	日本高血圧学会専門医認定施設	2012. 4. 1～2017. 3. 31 2017. 4. 1～2022. 3. 31
5	日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設	2013. 4. 1～2015. 3. 31 2015. 4. 1～2017. 3. 31 2017. 4. 1～2019. 3. 31

専門医数

単位：人

資 格	計
日本高血圧学会認定専門医	1
日本循環器学会認定循環器専門医	5
日本腎臓学会腎臓専門医	1
日本内科学会総合内科専門医	4
日本臨床検査医学会臨床検査専門医	1
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医	6
日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医	1
日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医	2
合 計	21

平成29年3月31日現在

治験実績

年度	内 容
平成 28 年度	虚血性脳血管障害患者を対象とした CS-747S（プラスグレル塩酸塩）の既存治療対照第Ⅲ相二重盲検比較試験
2 件	DU-176b 第Ⅲ相臨床試験（非弁膜症性心房細動） 既存の経口抗凝固薬の投与が困難な 80 歳以上の非弁膜症性心房細動患者を対象とした多施設共同無作為化プラセボ対照二重盲検比較試験

実習受入状況

※過去3か年分について掲載

平成26年度	医局	看護部	リハビリテーション部			栄養室	全体
			P T	O T	S T		
延件数 (単位：件)	3	20	20	12	8	1	64
延人数 (単位：人)	98	941	507	373	322	6	2247

平成27年度	医局	看護部	リハビリテーション部			栄養室	全体
			P T	O T	S T		
延件数 (単位：件)	4	14	17	11	5	0	51
延人数 (単位：人)	132	1073	663	347	260	0	2475

平成28年度	医局	看護部	リハビリテーション部				栄養室	全体
			P T	O T	S T	MSW		
延件数 (単位：件)	4	17	20	13	6	2	0	62
延人数 (単位：人)	114	974	439	500	181	52	0	2260

財団事業(青森県委託事業)
 青森県高次脳機能障害支援拠点機関
 平成28年度事業活動報告

1. 青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会

開催日時：平成28年9月10日（土）14：00～16：30

開催場所：アピオあおもり 2階

参加者：108名

講演

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

副院長 松本 茂男 先生

『エピソードで理解する高次脳機能障害』

講師：社会福祉法人旭川荘

高次脳機能障害支援室長 後藤 祐之 先生

※拠点機関支援コーディネーターによる医療福祉相談を同時開催

2. 青森県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業検討委員会

開催日時：平成28年7月26日（火）17：30

開催場所：青森国際ホテル 2階 高砂の間

出席者：13名

案件

1. 平成27年度事業報告について

2. 平成28年度事業計画について

3. 相談件数

相談件数	相談者		
	本人	家族	その他
	6	24	49
就労支援	0	2	1
診断・治療	5	14	41
支援体制・家族会	0	7	5
その他	1	1	2

財団事業(事務局)
青森県成人・老人リハビリテーション施設協会
平成28年度事業活動報告

青森県成人・老人リハビリテーション施設協会研修会

開催日時：平成28年10月21日(金) 18:00～19:30

開催場所：青森県観光物産館アスパム 4階 十和田

参加者：病院、老健、特養等職員 86名

事例報告

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

副院長 岩田 学 先生

『当院の転倒・転落に対する取り組み ―転倒・転落WGの活動を通じて―』

講師：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

作業療法士 今井 寛人 先生

特別講演

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

副院長 岩田 学 先生

『チームで取り組む転倒予防対策』

講師：総合リハビリテーション 伊予病院

院長 藤田 正明 先生

財団事業(主催)
脳卒中市民公開講座
平成28年度事業活動報告

「脳卒中市民公開講座2016」

開催日時：平成28年9月25日（日）14：00～16：00

開催場所：弘前市民文化交流館 大ホール（ヒロロ4F）

参加者：116名

テーマ『ためになる！「あたらない」ためのお話し』

1. 講演

講演1

『脳卒中予防十カ条を知ろう！』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
内科副部長 目時 典文 先生

講演2

『脳ドックでみつける血管の問題』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
脳神経外科部長 内沢 隆充 先生

講演3

『脳卒中で生じる食べることの障害』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
副院長（リハビリテーション部長） 岩田 学 先生

2. パネルディスカッション

3. その他

- ・病院スタッフによる相談コーナーの設置
- ・脳卒中疑似体験、ABI検査コーナーの設置

財団事業(主催)

黎明郷リハビリテーションケア勉強会

平成28年度事業活動報告

1. 第7回 黎明郷リハビリテーションケア勉強会

テ ー マ:『移乗について』

開催日時:平成28年7月15日(金) 18:00~19:30

開催場所:弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 2F 大会議室

参 加 者:病院、老健、特養等職員 24名

(1) 講 義『移乗の基本を学ぶ』

立ち上がりの基本・自立へとつなげる介助方法・介助者自身を守る介助方法

(2) 演 習『移乗動作介助の手技を獲得する』

移乗動作介助のロールプレイ・介助する側だけでなく介助される側の体験

指導担当:弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

リハビリテーションスタッフ

2. 第8回 黎明郷リハビリテーションケア勉強会

テ ー マ:『排痰方法・ポジショニングについて見直そう』

開催日時:平成28年11月25日(金) 18:00~19:00

開催場所:弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 2F 大会議室

参 加 者:病院、老健、特養等職員 46名

内 容:講義及び体験演習

排痰方法および拘縮予防・車椅子移乗時・ベッド上の各ポジショニングについて

指導担当:弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

リハビリテーションスタッフ

財団事業

一般財団法人黎明郷 創立50年誌制作

発行 日：平成29年9月28日

規格・発行部数等：A4オールカラー・182ページ、1200部

編集 委員：保嶋 実、岩田 学、馬場 佳子、小林 正志、
三國谷 恵美子、三浦 純子、奈良 富士子、立林 修

以下、表紙及び目次の抜粋を掲載

創立50年誌

一般財団法人 黎明郷



目 次

巻頭言	一般財団法人 黎明郷 理事長 保 嶋 実	6
御祝辞		
祝 辞	青森県知事 三 村 申 吾	8
黎明郷創立50周年お祝いの言葉	自民党広報本部長 衆議院議員 木 村 太 郎	9
黎明郷創立50周年記念祝辞	弘前市長 葛 西 憲 之	10
お祝いのことば	平川市長 長 尾 忠 行	11
創立50年誌発刊にあたり祝辞	黒石市長 高 樋 憲	12
一般財団法人黎明郷の創立50周年に寄せて	大鰐町長 山 田 年 伸	13
財団法人黎明郷創立50周年を祝して		
	青森県中南地域県民局 地域健康福祉部長 山 中 朋 子	14
黎明郷の理念と信条		15
財団のあゆみ～この10年を振り返って		
はじめに	一般財団法人 黎明郷 事務局長 小 林 正 志	19
沿 革		
弘前脳卒中センターの開設		
弘前脳卒中・リハビリテーションセンターの開設		
黎明郷礎ヶ関診療所の開設と閉所		
黎明郷リハビリテーション病院建物解体工事と跡地の寄附		
黎明郷リハビリテーション病院前庭とコウヤマキ		
年 表		33
思い出		37
弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 開設10周年記念式典・講演会		
記念式典・講演会次第		
祝賀会次第		
式 辞	一般財団法人 黎明郷 理事長 保 嶋 実	62
記念講演		
脳卒中の診療を通して学んだこと・伝えたいこと		
	弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座 教授 奥 村 謙	63
レニン・アンジオテンシン系		
… 東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座 腎・高血圧・内分泌学分野 教授 伊 藤 貞 嘉		66
財団のあゆみ		
私の2011年	一般財団法人 黎明郷 理事長 保 嶋 実	70
新春随想 「1」の六つ並ぶ日の知らせ（青森県医師会報より転載）		
	財団法人 黎明郷 理事長 保 嶋 実	73
黎明郷50年の歩みの一コマを担って	一般財団法人 黎明郷 名誉理事長 福 田 道 隆	75
50年間のご貢献に感謝して	弘前大学 学長 佐 藤 敬	79
50年の歩みの重み：時代の流れと地域の要望への対応		
	済生会熊本病院心臓血管センター循環器内科 最高技術顧問 奥 村 謙	80
一般財団法人黎明郷 創立50年誌祝辞	公益社団法人 青森県医師会 会長 齊 藤 勝	81
一般財団法人黎明郷 財団創立50周年に寄せて	一般社団法人 弘前市医師会 前会長 田 村 瑞 穂	82
創立50周年に寄せて	青森銀行 取締役頭取 成 田 晋	83
おもいで	村上新町病院 理事長 村 上 秀 一	84
黎明郷リハビリテーション病院の創立期の思い出	玉田内科医院 院長 玉 田 友 一	85



黎明郷の思い出	弘前大学大学院保健学研究科 看護学領域 教授 長 内 智 宏	87
センターとほんの少しの関わり合い	弘前学院大学 学長 吉 岡 利 忠	88
創立50周年によせて	前鶴田町長 中 野 堅 司	89
脳卒中研究施設と黎明郷	弘前大学医学部長・大学院医学研究科長 若 林 孝 一	90
黎明郷創立50周年に寄せて	弘前大学大学院保健学研究科長 木 田 和 幸	92
黎明郷50周年を祝して	弘前大学大学院医学研究科 社会医学講座 教授 中 路 重 之	93
一般財団法人『黎明郷』創立50周年を祝して — 50年の取り組みに敬意を	国立病院機構弘前病院 特別統括病院長 藤 哲	94
財団創立50周年に向けて	弘前大学大学院医学研究科 脳神経外科学講座 教授 大 熊 洋 揮	95
弘前脳卒中・リハビリテーションセンターのさらなる発展を期待します	弘前大学大学院医学研究科附属脳神経血管病態研究施設 脳神経内科学講座 教授 東海林 幹 夫	96
精神科医から見た脳卒中	弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座 准教授 古 郡 規 雄	97
“黎明郷スピリット”と弘前脳卒中センター開院の思い出	弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座 准教授 富 田 泰 史	98
お祝いに代えて	弘前大学大学院医学研究科 放射線科学講座 診療教授 小 野 修 一	99
財団創立50周年を祝して	青森県立保健大学健康科学部理学療法学科 准教授 勘 林 秀 行	100
黎明郷リハビリテーション病院の思い出	弘前大学大学院保健学研究科 総合リハビリテーション科学領域 准教授 高 見 彰 淑	101
黎明郷とともに・・・	弘前大学大学院保健学研究科 総合リハビリテーション科学領域 講師 藤 田 俊 文	102
笑顔の挨拶からつながる多職種連携の実践	弘前大学大学院保健学研究科 看護学領域 助教 北 嶋 結	103
黎明郷50年 和の心	弘前大学 名誉教授 高 松 滋	104
財団創立50周年記念によせて	弘前大学医療技術短期大学部 名誉教授 二 唐 東 朔	107
中国学術交流ツアーの思い出	弘前大学 名誉教授 對 馬 均	108
創立50年誌発刊にあたって	公益社団法人 青森県看護協会 会長 熊 谷 崇 子	109
財団設立50周年に寄せて	一般社団法人 青森県理学療法士会 会長 古木名 寿 登	110
創立50周年に寄せて	一般社団法人 青森県作業療法士会 会長 原 長 也	111
創立50周年に寄せて	青森県言語聴覚士会 会長 成 田 智	112
黎明郷思い出のまに	黎明郷リハビリテーション病院 元院長令夫人 目 時 順 子	113
黎明郷病院の思い出	平川市健康推進課 主任保健師 佐々木 淳 子	115
財団法人黎明郷創立50周年を迎えて	黎明郷リハビリテーション病院 元薬剤室長 鳴 海 道 安	116
黎明郷と私	弘前脳卒中センター 庶務課 元営繕担当主任 伊 藤 初 雄	117
黎明郷に就職して	弘前脳卒中センター 元看護師長 對 馬 光 子	118
言語療法室の思い出・人生	黎明郷リハビリテーション病院 元言語療法室長 千 島 和 江	119
目時弘文先生との出会いと思い出	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長 松 本 茂 男	120
黎明郷と私	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長 鎌 田 孝 篤	122
最初の頃の思い出	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長 岩 田 学	123
黎明郷と脳卒中	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 脳神経外科部長 内 沢 隆 充	124
創立50周年に寄せて	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 医局長・内科部長 清 野 聡	125
猫との生活の始まり	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 内科部長 人 見 博 康	126
財団創立50周年記念に寄せて	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 内科部長 馬 場 佳 子	127
decade	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 内科部長 高 橋 広 希	128
1995年晩夏の1日	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 内科副部長 佐々木 都 子	129
黎明郷50年誌に寄せて	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 内科副部長 萩 井 讓 士	130
これまでの10年とこれからの10年	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 内科副部長 目 時 典 文	131



循環器内科医が脳神経外科医になった1年	
..... 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 内科副部長 齋藤新	133
わたしと脳卒中 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 内科医長 白戸弘志	134
黎明郷50周年までの10年、未来へ繋ぐ10年	
..... 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 薬剤師長 鳥谷部翔	135
黎明郷創立50周年に寄せて	
..... 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 医薬品情報室副室長 藤田尚子	136
財団進展を目指して ... 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 診療放射線技師長 川村隆行	137
黎明郷との思い出 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 臨床検査技師長 阿保文子	138
回復をサポートする管理栄養士として	
..... 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 管理栄養士長 鳴海悦子	139
黎明郷とともに	
..... 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター リハビリテーション部技師長 三浦順子	140
財団創立50周年への思い	
..... 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 理学療法室長 須藤真史	141
財団創立50周年に寄せて 〜これまで、そしてこれから〜	
..... 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 作業療法室長 算用子暁美	142
言語聴覚室 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 言語聴覚室長 松山哲子	143
医療相談室の歩み 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 医療相談室長 土岐敏子	144
黎明郷創立50周年に思う 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護部長 三國谷恵美子	145
人生は黎明郷と共に 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護師長 横山純子	147
黎明郷創立50周年に寄せて 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護師長 中田智子	148
財団創立50周年記念に寄せて 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護師長 成田京子	149
あの日・あの時 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護師長 山田まり子	150
私の履歴書 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護師長 工藤留美子	151
黎明郷との出会い 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護師長 金崎真紀子	152
黎明郷創立50周年によせて 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護師長 小笠原美幸	153
「訪問看護」との出逢いに感謝 ... 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 看護師長 小田桐千代	154
黎明郷との思い出を振り返って	
..... 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 元看護師長 一戸哲子	155
平成の黎明郷を振り返って 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 事務部長 工藤雅令	156
財団法人黎明郷 一思い出の先生ー	
..... 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 事務部次長 奈良富士子	158
黎明郷の軌跡と使命 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 事務部次長 工藤博人	161
北日本病院懇親野球大会 ... 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 施設管理課長 蒔苗寿治	162
黎明郷リハビリテーション病院の思い出 介護老人保健施設つがる 施設長 横山篤	164
入職の頃の思い出 介護老人保健施設つがる 看護師長 黒石昌	165
黎明郷50周年にあたって 介護老人保健施設つがる 副看護師長 赤平友子	166
介護老人保健施設つがる 通所リハビリテーションの今までの歩み	
..... 介護老人保健施設つがる 通所主任 葛西せい子	167
これまでを振り返って 介護老人保健施設つがる 理学療法主任 貴田貴子	168
黎明郷50周年によせて 介護老人保健施設つがる 事務課長 山本忍	169
役員名簿	170
定 款	173
四季の写真展	180
編集後記	182
..... 編集委員会副委員長 岩田学	

学術報告－全国学会

年 月 日		学会・研究会名	発表演題	主演者名
1	平成 28 年 4 月 14 日 ～ 4 月 16 日	第 41 回日本脳卒中学会 総会(札幌市)	CT 画像解析による脳血液量(CBV)の 評価	内沢 隆充
2	平成 28 年 4 月 14 日 ～ 4 月 16 日	第 41 回日本脳卒中学会 総会(札幌市)	NOAC 関連脳出血例の特徴と予後不 良例の検討	萩井 譲士
3	平成 28 年 4 月 14 日 ～ 4 月 16 日	第 41 回日本脳卒中学会 総会(札幌市)	脳梗塞患者の発作性心房細動検出に おける ANP 測定の有用性	白戸 弘志
4	平成 28 年 4 月 14 日 ～ 4 月 16 日	第 41 回日本脳卒中学会 総会(札幌市)	脳卒中医療と看護師の役割について の検討	三上 小夜香
5	平成 28 年 4 月 14 日 ～ 4 月 16 日	第 41 回日本脳卒中学会 総会(札幌市)	脳卒中医療に従事する看護職員のメ ンタルヘルス調査	成田 幸英
6	平成 28 年 5 月 10 日 ～ 5 月 12 日	2nd European Stroke Organisation Conference 2016 (バルセロナ)	It is rarely reported the prognosis of ischemic stroke as the complication of coronary angiography (CAG) and percutaneous coronary intervention (PCI).	齋藤 新
7	平成 28 年 5 月 27 日 ～ 5 月 29 日	第 51 回日本理学療法学 術大会(札幌市)	下肢中等度麻痺を有する脳卒中患者 の歩容に影響する要因について	奈川 英美
8	平成 28 年 6 月 9 日 ～ 6 月 11 日	第 53 回日本リハビリテーシ ョン医学会学術集会(京都 市)	外 側 線 条 体 動 脈 領 域 Branch Atheromatous Disease(BAD)の進行予 測と長期予後	岩田 学
9	平成 28 年 6 月 9 日 ～ 6 月 11 日	第 53 回日本リハビリテーシ ョン医学会学術集会(京都 市)	脳卒中発症 2 週目で回復期の転帰先 を推定できるか～決定木分析を用い て～	三浦 康彦
10	平成 28 年 6 月 17 日 ～ 6 月 18 日	第 3 回日本心血管脳卒中 学会学術集会(東京都港 区)	脳梗塞患者の発作性心房細動検出に おける ANP 測定の有用性:BNP 測定 との比較検討	白戸 弘志
11	平成 28 年 7 月 7 日 ～ 7 月 9 日	第 25 回日本心血管インタ ーベンション治療学会(東 京都千代田区)	高度腎機能低下を有する腎動脈狭窄 患者に対するPTRAの有用性	成田 憲紀
12	平成 28 年 9 月 9 日	第 50 回日本作業療法学 会 (札幌市)	遠位箸のみ動かす課題と鉛筆を動か す課題は普通箸の操作獲得に有効 か？	吉水 尚子
13	平成 28 年 9 月 9 日	第 50 回日本作業療法学 会 (札幌市)	脳卒中による身体機能低下が主観的 回復感に及ぼす影響	佐藤 速太
14	平成 28 年 9 月 9 日	第 50 回日本作業療法学 会 (札幌市)	外出の再開を目指した訪問作業療法	金谷 圭子

15	平成 28 年 9 月 17 日 ～ 9 月 19 日	第 26 回日本医療薬学会 年会（札幌市）	病棟専従薬剤師として服薬確認と持 参薬鑑別から検討した病棟薬剤業務 の検討	鳥谷部 翔
16	平成 28 年 9 月 17 日 ～ 9 月 19 日	第 26 回日本医療薬学会 年会（札幌市）	ノバスタン HI 注の残液問題とその流速 に関するプロトコルの導入	倉内 寿孝
17	平成 28 年 9 月 17 日 ～ 9 月 19 日	第 26 回日本医療薬学会 年会（札幌市）	救急搬送脳卒中患者における注射抗 菌薬使用状況と感染症合併リスク因子 の検討	船水 梨沙
18	平成 28 年 9 月 17 日 ～ 9 月 19 日	第 26 回日本医療薬学会 年会（札幌市）	脳卒中急性期病棟における処方箋の 代行入力と代行入力に関するプロトコ ールに基づく薬物治療管理 PBPM	花田 和大
19	平成 28 年 10 月 7 日	Asian Confederation For Physical Therapy(クアラル ンプール)	健常成人における上肢の振りと歩行能 力の関連性 ～脳卒中片麻痺例をイメージして～	薛 峻杰
20	平成 28 年 10 月 10 日	第 26 回日本呼吸ケア・リハ ビリテーション学会学術集 会（横浜市）	マットレスの材質が呼吸介助時の一回 換気量に与える影響	木村 憧
21	平成 28 年 10 月 27 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 茨城 2016 （つくば市）	当院回復期病棟での FIM 利得の傾向 について	山本 賢雅
22	平成 28 年 10 月 27 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 茨城 2016 （つくば市）	当回復期病棟における ADL 向上に向 けた取り組みについて ～アンケート 調査を通じての現状と今後の課題～	鈴木 遼
23	平成 28 年 10 月 27 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 茨城 2016 （つくば市）	脳出血後に遂行機能障害を呈した症 例に対して、多職種で統一した介入を 行い ADL が大幅に改善した一例	兼平 真理恵
24	平成 28 年 10 月 27 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 茨城 2016 （つくば市）	家族を含めた多職種の連携によりトイ レでの排泄が可能になった症例	西澤 清貴
25	平成 28 年 10 月 27 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 茨城 2016 （つくば市）	現実的なゴール設定に導くことができ た一症例	佐藤 芽以
26	平成 28 年 10 月 27 日	リハビリテーション・ケア合 同研究大会 茨城 2016 （つくば市）	脳卒中患者における入院時持参薬と 退院時処方からみるポリファーマシー の現状と課題	鳥谷部 翔
27	平成 29 年 2 月 10 日 ～ 2 月 11 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 29 回研究大 会 in 広島（広島市）	排泄活動自立へ向けたフローチャート 導入の効果	今住 真実
28	平成 29 年 2 月 10 日 ～ 2 月 11 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 29 回研究大 会 in 広島（広島市）	脳卒中患者の外泊訓練前後における 介護者の心理的状態について(1)～ 患者の認知機能との関連～	成田 秀貴

29	平成 29 年 2 月 10 日 ～ 2 月 11 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 29 回研究大 会 in 広島(広島市)	脳卒中患者の外泊訓練前後における 介護者の心理的状態について(2)～ 患者の認知機能との関連～	五十嵐沙弥香
30	平成 29 年 2 月 10 日 ～ 2 月 11 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 29 回研究大 会 in 広島(広島市)	脳卒中片麻痺患者の退院前訪問指導 のあり方	木村 勇貴
31	平成 29 年 2 月 10 日 ～ 2 月 11 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 29 回研究大 会 in 広島(広島市)	脳血管疾患により重度の視覚障害を 呈した患者の歩行への介入	太田 祐輔
32	平成 29 年 2 月 10 日 ～ 2 月 11 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 29 回研究大 会 in 広島(広島市)	左半側空間無視を有した重度片麻痺 患者への排泄動作への介入 ～自宅 退院を目標にして～	古川 寿樹
33	平成 29 年 2 月 10 日 ～ 2 月 11 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 29 回研究大 会 in 広島(広島市)	記憶障害を呈した一症例～自伝的記 憶ビデオによる訓練経過～	成田 理紗
34	平成 29 年 2 月 10 日 ～ 2 月 11 日	回復期リハビリテーション 病棟協会第 29 回研究大 会 in 広島(広島市)	「レベルアップ！スピードアップ！フォ ローアップ！」 委員会企画(医療安全委員会)シンポ ジスト「対決！転倒予防対策チーム」	今井 寛人
35	平成 29 年 2 月 23 日 ～ 2 月 24 日	第 32 回日本静脈経腸栄 養学会学術集会(岡山市)	脳卒中急性期から回復期病棟におけ る排便トラブルと薬剤との関連性	鳥谷部 翔
36	平成 29 年 2 月 23 日 ～ 2 月 24 日	第 32 回日本静脈経腸栄 養学会学術集会(岡山市)	当院における半夏厚朴湯の投与経験 と課題	阿部 早苗
37	平成 29 年 2 月 23 日 ～ 2 月 24 日	第 32 回日本静脈経腸栄 養学会学術集会(岡山市)	脳卒中急性期における摂食障害に対 する試み～摂食障害リスクのチェックリ ストを活用してみて～	今井 真子
38	平成 29 年 3 月 16 日 ～ 3 月 19 日	第 42 回日本脳卒中学会 学術集会(大阪市)	心房細動のタイプ別にみた心原性脳 塞栓症の重症度	萩井 譲士
39	平成 29 年 3 月 16 日 ～ 3 月 19 日	第 42 回日本脳卒中学会 学術集会(大阪市)	低体重は心原性脳塞栓症の予後不良 因子である	萩井 譲士
40	平成 29 年 3 月 16 日 ～ 3 月 19 日	第 42 回日本脳卒中学会 学術集会(大阪市)	80 歳以上心原性脳塞栓症患者に対 する抗凝固療法の問題点	目時 典文
41	平成 29 年 3 月 16 日 ～ 3 月 19 日	第 42 回日本脳卒中学会 学術集会(大阪市)	冠動脈造影検査および心血管インタ ーベンションに起因した虚血性脳卒中 の予後	齋藤 新
42	平成 29 年 3 月 16 日 ～ 3 月 19 日	第 42 回日本脳卒中学会 学術集会(大阪市)	アテローム血栓性脳梗塞患者の退院 時機能予後における低体重の影響	白戸 弘志

学術報告－地方学会

年 月 日		学会・研究会名	発表演題	主演者名
1	平成 28 年 5 月 21 日 ～ 5 月 22 日	日本病院薬剤師会 東北 ブロック第 6 回学術大会 (郡山市)	脳卒中専門病院における入院時 持参薬と退院時処方からみた減薬 への現状と課題	鳥谷部 翔
2	平成 28 年 5 月 21 日 ～ 5 月 22 日	日本病院薬剤師会 東北 ブロック第 6 回学術大会 (郡山市)	当院における AUD と DOT を用い た抗菌薬使用量サーベイランスの 評価	倉内 寿孝
3	平成 28 年 5 月 21 日 ～ 5 月 22 日	日本病院薬剤師会 東北 ブロック第 6 回学術大会 (郡山市)	脳卒中患者における DPP-4 阻害 薬の 3 剤比較	高瀬 公子
4	平成 28 年 6 月 4 日	第 162 回日本循環器学会 東北地方会(盛岡市)	脳梗塞患者の発作性心房細動検 出における ANP 測定の有用性	白戸 弘志
5	平成 28 年 6 月 4 日	第 162 回日本循環器学会 東北地方会(盛岡市)	NOAC 関連脳出血症例の予後不 良例の検討	萩井 譲士
6	平成 28 年 8 月 27 日	第 8 回 J 感染制御ネットワ ークフォーラム(仙台市)	感染管理「血液培養マニュアル」～ 手技統一を図り適切な治療へ繋げ る～	小野 真矢子
7	平成 28 年 10 月 30 日	青森県病院薬剤師会 平 成 28 年度会員研究発表 会並びに学術講演会(青 森市)	注射抗菌薬適正使用に向けた新 規処方時全例介入による感染症デ ータベース作成	倉内 寿孝
8	平成 28 年 10 月 30 日	青森県病院薬剤師会 平 成 28 年度会員研究発表 会並びに学術講演会(青 森市)	脳卒中救急病棟における PBPM と 相談応需から見えた今後の病棟薬 剤業務の展開	花田 和大

学術報告－依頼講演

年 月 日		学会・研究会名	発表演題	主演者名
1	平成 28 年 4 月 2 日	第 14 回青森県脳卒中フォーラム(青森県脳卒中フォーラム、田辺三菱製薬)(青森市)	嚥下障害患者における NOACs および簡易懸濁法の有用性	鳥谷部 翔
2	平成 28 年 4 月 2 日	第 14 回青森県脳卒中フォーラム(青森県脳卒中フォーラム、田辺三菱製薬)(青森市)	非ビタミン K 阻害経口抗凝固薬時代におけるワルファリン療法の問題点と限界	萩井 譲士
3	平成 28 年 5 月 1 日	第 2 回弘前医療技術イノベーションシンポジウム(弘前大学整形外科学講座、弘前記念病院)(弘前市)	当院における脳卒中医療の現状	岩田 学
4	平成 28 年 5 月 20 日	心原性脳塞栓症予防学術講演会(バイエル薬品)(弘前市)	ワルファリンの課題と NOAC への期待～当院の使用経験から～	萩井 譲士
5	平成 28 年 5 月 27 日	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 平成 28 年度学術講演会(弘前市)	脳卒中患者の特徴的症状と病歴	目時 典文
6	平成 28 年 5 月 27 日	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 平成 28 年度学術講演会(弘前市)	搬送時の服薬確認とお薬手帳の利活用	鳥谷部 翔
7	平成 28 年 5 月 27 日	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 平成 28 年度学術講演会(弘前市)	脳卒中医療とコメディカルの役割	村上 朋子
8	平成 28 年 6 月 11 日	青森県病院薬剤師会勉強会(青森県病院薬剤師会、第一三共)(東京都港区)	薬剤師が知っておいてほしい抗血栓療法の実態:～PT-INR とは? 処方箋の裏側～	萩井 譲士
9	平成 28 年 6 月 17 日	弘前脳神経てんかんセミナー(大塚製薬、UCB ジャパン)(弘前市)	抗てんかん薬注射剤の使用状況と配合変化・嚥下評価に対する薬剤師の関わり	鳥谷部 翔
10	平成 28 年 6 月 29 日	南黒医師会学術講演会(南黒医師会、第一三共)(黒石市)	超高齢社会に必要な脳卒中治療戦略	萩井 譲士
11	平成 28 年 6 月 30 日	つがる地区心原性脳塞栓症予防セミナー(バイエル薬品)(五所川原)	循環器内科専門医が脳神経外科医になった 1 年	齋藤 新
12	平成 28 年 7 月 8 日	フレイルを考える学術講演会(第一三共)(弘前市)	心原性脳塞栓症の実際と抗凝固薬の重要性	目時 典文

13	平成 28 年 7 月 10 日	Xarelto Current Research Meeting 2016 / Clinical(東京都千代田区)	Possible mechanisms for favorable effects of rivaroxaban on bleeding events compared with warfarin:Insight from measurements of prothrombin fragment F1+2	萩井 譲士
14	平成 28 年 7 月 20 日	第 10 回津軽脳卒中セミナー(田辺三菱製薬)(弘前市)	脳卒中医療と看護師の役割についての検討	三上 小夜香
15	平成 28 年 7 月 22 日	抗血栓療法連携セミナーin 大館北秋田(大館北秋田医師会、ブリストル・マイヤーズスクイブ、ファイザー)(大館市)	超高齢社会における脳卒中診療	萩井 譲士
16	平成 28 年 8 月 20 日	第 17 回青森県臨床薬学研究会(第一三共)(青森市)	簡易懸濁法認定薬剤師として～地域貢献、論文作成、OD 錠への期待～	鳥谷部 翔
17	平成 28 年 8 月 20 日	第 17 回青森県臨床薬学研究会(第一三共)(青森市)	脳卒中救急病棟における病棟薬剤業務と PBPM	花田 和大
18	平成 28 年 10 月 2 日	平成 28 年度現職者研修会(青森県作業療法士会)(五戸町)	地域生活を支援する	金谷 圭子
19	平成 28 年 10 月 15 日	青森県栄養士会弘前地区研修会(弘前市)	嚥下調整食の実際 ～自慢レシピ～	鳴海 悦子
20	平成 28 年 10 月 21 日	平成 28 年度青森県成人・老人リハビリテーション施設協会研修会(青森市)	当院の転倒・転落に対する取り組み～転倒・転落 WG の活動を通じて～	今井 寛人
21	平成 28 年 10 月 25 日	平成 28 年度障害者地域リハビリテーション研修会(青森市)	高次脳機能障害について	岩田 学
22	平成 28 年 10 月 25 日	平成 28 年度障害者地域リハビリテーション研修会(青森市)	高次脳機能障害の相談支援について	土岐 敏子
23	平成 28 年 11 月 11 日	抗血栓薬を脳・消化管から熟考する会(第一三共、アストラゼネカ)(弘前市)	抗血栓薬の多剤併用が必要な訳とその問題点	目時 典文
24	平成 28 年 11 月 15 日	「あおもり食産業」介護食ビジネス研究会 第 5 回研究会(青森県農林水産部)(青森市)	介護食について ～現場からの提言～	三浦 順子

25	平成 28 年 11 月 24 日	脳卒中予防レクチャーミー ティング in 青森(第一三共) (青森市)	超高齢化社会に必要な脳卒中治 療戦略～最大の治療は、予防と時 間！～	萩井 譲士
26	平成 28 年 12 月 13 日	ストップ！NO 卒中プロジェ クト in 弘前(日本脳卒中協 会、ファイザー)(弘前市)	動脈硬化性脳卒中予防のためのリ スク管理の重要性	目時 典文
27	平成 28 年 12 月 13 日	ストップ！NO 卒中プロジェ クト in 弘前(日本脳卒中協 会、ファイザー)(弘前市)	当院における減塩指導の現状	鳴海 悦子
28	平成 29 年 1 月 23 日	地域連携・医療連携を考え る学術講演会(第一三共) (弘前市)	『超高齢社会の脳卒中地域連携 戦略:最大の治療は予防』～かか りつけ医のための添付文書に基づ いた抗凝固療法～	目時 典文
29	平成 29 年 1 月 30 日	平成 28 年度地域・家族介 護指導者養成講座(青森県 社会福祉協議会)(青森市)	誤嚥防止と食事介助の支援	三浦 順子
30	平成 29 年 2 月 4 日	東北 Anticoagulation Expert Meeting in Morioka (日本ベーリンガーインゲル ハイム)(盛岡市)	1 次・2 次予防専門医が共に考え る抗凝固療法	萩井 譲士
31	平成 29 年 3 月 1 日	平成 28 年度高齢者のため の健康講座(蓬田村役場) (蓬田村)	転ばない日々の過ごし方	算用子 暁美

学術報告－論文等

年 月 日		雑誌名	論文題目	著者名 (共著含む)
1	平成 28 年 4 月 1 日	Annals of General Psychiatry 2016 Vol.15 No.12(DOI 10.1186/S12991-016-00 99-x)	Relationship between the lesion location of acute ischemic stroke and early depressive symptoms in Japanese patients	目時 典文
2	平成 28 年 4 月 9 日	Heart View 2016 Vol.20 No.5 (P.423-429)	非ビタミン K 阻害経口抗凝固薬 (NOAC)のモニタリングは必要か?	萩井 譲士
3	平成 28 年 5 月 1 日	臨床神経学 2016 Vol.56 No.5 (P.309-317)	ワルファリン療法中に発症した心原性脳 塞栓症および脳出血例の発症時 PT-INR の検討:直接経口抗凝固薬時 代におけるワルファリン療法の問題点と 限界	奥村 謙 萩井 譲士
4	平成 28 年 5 月 1 日	簡易懸濁法研究会雑誌 2016 Vol.4 No.1(P.10)	企画投稿 ～簡易懸濁法研究会認定薬 剤師を取得して～「認定薬剤師を取得 して」	鳥谷部 翔
5	平成 28 年 5 月 12 日	地域ケアリング 2016 Vol.18 No.5 (P.83-87)	全身振動刺激が筋機能・循環動態へ与 える影響の解明	藤田 俊文 岩田 学
6	平成 28 年 8 月 1 日	月刊カレントセラピー 2016 Vol.34 No.8 (P.749-753)	脳梗塞の超急性期治療 ―血管内治療 ―	齋藤 新
7	平成 28 年 9 月 7 日	東北理学療法学 2016 Vol.28(P.61-66)	股関節屈曲角度の変化に伴う股関節外 旋筋力と筋活動 筋電図学的分析	樋口 朝美
8	平成 28 年 9 月 7 日	東北理学療法学 2016 Vol.28(P.91-96)	股関節屈曲制限における歩行の運動パ ターンの選択について	樋口 朝美
9	平成 28 年 9 月 25 日	脳と循環 2016 Vol.21 No.3 (P.78-84)	What's Up リハビリテーション	松本 茂男
10	平成 28 年 9 月 26 日	日本環境感染学会誌 2016 Vol.31 No.5 (P.326-334)	感染防止対策加算連携施設間における 抗菌薬使用量サーベイランスの評価	倉内 寿孝

11	平成 28 年 10 月 1 日	Brain Nursing 2016 Vol.32 No.10 (P.996-1003)	反射・運動失調・視野検査に用いる評価・アセスメントツール	目時 典文
12	平成 28 年 10 月 13 日	Thrombosis Research 2016 Vol.148 (P.9-14)	Effect of rivaroxaban on prothrombin fragment 1+2 compared with warfarin in patients with acute cardioembolic stroke:Insight from its serial measurement	萩井 譲士
13	平成 29 年 1 月 10 日	BIO Clinica 2017 Vol.32 No.1 (P.88-93)	全身振動刺激時の生理的反応と臨床応用	藤田 俊文 岩田 学
14	平成 29 年 2 月 10 日	回復期リハビリテーション 2017 Vol.15 No.4 (P.17-20)	現状報告 実績指数への準備と対応 3 急性期治療と紹介患者数確保が課題 脳卒中医療に専門性発揮し生き残り懸ける	松本 茂男
15	平成 29 年 2 月 20 日	臨床評価 2017 Vol.44 No.4 (P.768-772)	Session4 脳卒中に対するリハビリテーション 当院における脳卒中医療の現状	岩田 学
	平成 29 年 2 月 23 日	地域ケアリング 2017 Vol.19 No.3 (P.82-87)	全身振動刺激時の生理的反応と臨床応用	藤田 俊文 岩田 学

委員会報告

医療安全管理委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医療安全管理体制を確立し、医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法について、指針を示すことにより、適切な医療安全管理を実践し、患者様へ安全な医療を提供することを目的とする。

2. 構成員 ※平成 29 年 3 月末現在

委員長 保嶋 実（院長）

副委員長 三國谷 恵美子（看護部長）

藤田 尚子（医薬品情報室副室長）※

メンバー 鎌田 孝篤（副院長・医療安全推進室室長）※

岩田 学（副院長）

白戸 弘志（内科医長）※

成田 京子（看護師長）

山田 まり子（看護師長）

工藤 留美子（看護師長）

金崎 真紀子（看護師長）

小笠原 美幸（看護師長）

小田桐 千代（看護師長）

三浦 順子（リハビリテーション部技師長）

須藤 真史（理学療法室長）

算用子 暁美（作業療法室長）※

松山 哲子（言語聴覚室長）

土岐 敏子（医療相談室長）

鳥谷部 翔（薬剤師長）

川村 隆行（診療放射線技師長）

阿保 文子（臨床検査技師長）

鳴海 悦子（管理栄養士長）

小林 正志（事務局長）

工藤 雅令（事務部長）

奈良 富士子（事務部次長）

工藤 博人（企画運営課長）

蒔苗 寿治（施設管理課長）

今 基（医事課長補佐）

中田 智子（看護師長・感染対策室副室長）

横山 純子（看護師長・医療安全推進室副室長）※◆

蒔苗 敦子（看護主任）※

福井 楽（庶務係長）※

※医療安全推進室（兼務）

◆専従医療安全管理者

構成員の変更

平成 29 年 2 月 1 日付

1 病棟看護師長：山田まり子へ変更

2 病棟看護師長：工藤留美子へ変更

3 病棟看護師長：金崎真紀子へ変更

4 病棟看護師長：小田桐千代へ変更

外来看護師長：成田京子へ変更

3. 委員会等開催記録

・【医療安全推進室】

毎週金曜日 定例会（LV 判定他） 14：30～15：00

毎月第3木曜日 院内巡視 16：00～16：30

推進室メンバー 7名

※平成28年2月1日：専従医療安全管理者変更

・【医療安全管理委員会】

毎月第2水曜日 事例報告・検討 15：30～16：00

各部署リスクマネージャー他 31名

・【転倒・転落ワーキング】

毎月第1火曜日 16：00～16：30

各部署選出のメンバー 19名

業務グループ、教育グループ

・【薬剤ワーキング】

毎月第1水曜日 14：00～14：30

医薬品情報室、薬剤師、事務員、各部署看護業務委員、医療安全管理者 9名

インシデント、アクシデントをもとに薬剤に関連したマニュアル検討

・【薬剤ミーティング】

毎月第3火曜日 16：00～16：30

薬剤室室長、薬剤師長、医薬品情報室、看護部長、看護師長、看護主任

薬剤情報、取扱い運用、医療事故対策、医師との情報共有

院内巡視

開催日	場所	内容
平成28年4月21日	1病棟	病棟内環境整備 ルール厳守
平成28年5月19日	2病棟	機器管理 確認の習慣化
平成28年6月16日	3病棟	病棟内環境整備 物品整理
平成28年7月22日	4病棟	医療器材の管理指導
平成28年8月18日	5病棟	作業環境の整備
平成28年9月15日	外来	患者誤認対策 鍵管理
平成28年10月20日	臨床検査室	患者確認 作業環境整備
平成28年11月17日	診療放射線科	機器の安全確認 患者、禁忌確認の徹底
平成28年12月15日	栄養・厨房	安全感染を配慮した整理、清潔の保持
平成29年1月19日	リハビリ室	患者様の動線の確保や機能性を考慮
平成29年2月16日	事務室	整理整頓、働く環境を整備
平成29年3月16日	薬剤室	業務の見えるか

主な研修会

開催日	内容
平成 28 年 4 月 4 日	2016 年度新入職員教育研修「リスクマネジメント」
平成 28 年 4 月 20 日	看護部新人教育「医療安全研修」
平成 28 年 5 月 25 日	看護補助業務における医療安全
平成 28 年 6 月 13～17 日	第 1 回医療安全研修会「転倒・転落 KYT」
平成 28 年 7 月 20 日	弘前学院大学 4 年看護統合「医療安全管理」
平成 28 年 11 月 10 日 ～16 日	第 2 回医療安全研修「事例から要因・対策を考える」
平成 28 年 11 月 22 日	看護部新入職員医療安全研修「実践の中での医療安全の取り組み」
平成 28 年 11 月 28 日 ～12 月 2 日	平成 28 年度医薬品安全管理研修 「薬物療法を安全に行うには」

4. 活動要約

(1) 医療安全研修 年 2 回開催 参加率：85.9%

・平成 28 年度第 1 回医療安全研修

「転倒・転落 KYT」

年間のインシデント報告の約半数を占めている転倒・転落に焦点をあて実際に提出されたレポートをもとに KYT 方式で原因と対策を探った。インシデント報告されたケースを全職種で検討することで、①いろいろな視点で原因追及②それに伴った気づきや対策に繋げる③患者様の視点に立って根本原因を探り転倒・転落を減らすことができると考える。今後も転倒・転落ワーキングチームの協力を得ながら同様の事象を繰り返さないため、「転倒・転落事例集」作成にも取り組んでいく。

・平成 28 年度第 2 回医療安全研修

「事例から要因・対策を考える」

平成 28 年 2 月にインシデントレポートシステムの運用が開始となった。レポートの記載方法にばらつきがあり、記載時の注意点と空欄となっている要因・対策について考える機会となることを目的とした。日々の業務の中で幾度となく繰り返されている実際の事例を使用した。参加者の反応よりインシデントの情報が共有できていないという事を痛感した。患者様の安全第一を考え部署内で起きている事象をその時に関わったスタッフだけで情報共有するのではなく、できるだけ多くのスタッフと情報共有し同じ間違いを繰り返さないようにしていく職場風土とすることが大切である。インシデントを起こさないためには、「情報共有」「コミュニケーション」「患者確認」「確認」が重要であるということを理解できたと判断する。

(2) 「医療事故調査制度」

医療事故調査制度は、平成 26 年 6 月 18 日に成立し、医療法の改正に盛り込まれた制度で平成 27 年 10 月より医療事故調査制度が始まり、全死亡事例が事故に起因していないかどうかを判定する必要がある。当院では 28 年 8 月よりチェックシートを用いて判定、管理し、医療の安全を確保している。全死亡事例を調査し事故に起因する事例はなかった。

平成 28 年度まとめ

インシデントレポートシステムが導入されたことにより、レポートの作成過程もチェックでき、提出も 1 週間以内で提出される割合が増加している。また、リスクマネージャーのコメントも記載されているため、注意しなければならない点も合わせて伝えることが可能となった。部署のインシデントデータをリアルタイムに見ることができるため、問題点を見出すことができ今後の課題として捉えることができている。また、病棟単位で薬剤師や他職種による勉強会を開催、マニュアル作成に関しても多職種と協働して作成するなど、より偏りが少ないものに仕上げる工夫がされていた。事象に関しては、根本原因を捉え、適切な対策で繰り返される事故を防ぎ質の高い医療が提供できるよう医療安全管理者として関わっていく。

院内感染防止対策委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医療関連感染防止のために、耐性菌検出状況・抗菌薬の使用状況を把握し院内感染対策の業務が適正に遂行されているかを審議することを目的とする。

2. 構成員 ※平成 29 年 3 月末現在

委員長	保嶋 実	(院長)		
メンバー	清野 聡	(医局長)	萩井 譲士	(内科副部長)
	三國谷恵美子	(看護部長)	成田 京子	(看護師長)
	山田 まり子	(看護師長)	工藤 留美子	(看護師長)
	金崎 真紀子	(看護師長)	小笠原 美幸	(看護師長)
	三浦 順子	(リハビリテーション部技師長)	川村 隆行	(診療放射線技師長)
	阿保 文子	(臨床検査技師長)	藤田 佳子	(主任管理栄養士)
	鳥谷部 翔	(薬剤師長)	倉内 寿孝	(主任薬剤師)
	工藤 雅令	(事務部長)	横山 純子	(看護師長・医療安全推進室副室長)
	中田 智子	(看護師長・感染対策室副室長)	毛利 暢子	(看護主任) ※

※院内感染管理者

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 4 月 20 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告
2	平成 28 年 5 月 18 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告
3	平成 28 年 6 月 15 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 第 1 回合同カンファレンス参加 I C T 委員よりラウンド状況など報告
4	平成 28 年 7 月 20 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 第 1 回合同カンファレンス結果報告 I C T 委員よりラウンド状況など報告 第 1 回院内感染防止対策研修実施

5	平成 28 年 8 月 17 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 弘前保健所立ち入り調査 I C T 委員よりラウンド状況など報告 第 1 回院内感染防止対策研修評価・報告
6	平成 28 年 9 月 21 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 弘前保健所立ち入り調査結果報告 インフルエンザワクチン接種準備開始 I C T 委員よりラウンド状況など報告
7	平成 28 年 10 月 21 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 インフルエンザワクチン接種開始（職員、外部委託含む） I C T よりラウンド状況など報告 第 2 回院内感染防止対策研修実施 第 2 回合同カンファレンス参加
8	平成 28 年 11 月 16 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 平成 28 年度津軽感染制御フォーラム （第 3 回合同カンファレンス）参加 I C T よりラウンド状況など報告 第 2 回院内感染防止対策研修結果報告 第 2 回合同カンファレンス結果報告
9	平成 28 年 12 月 21 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 平成 28 年度津軽感染制御フォーラム （第 3 回合同カンファレンス）報告 I C T よりラウンド状況など報告
10	平成 29 年 1 月 18 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告
11	平成 29 年 2 月 15 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T よりラウンド状況など報告

12	平成 29 年 3 月 15 日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C T より院内巡視(ラウンド)年間の状況・結果報告 第 4 回合同カンファレンス参加・結果報告
----	------------------	--

4. 活動要約

- ・ 感染情報レポートの評価・検討

院内感染報告患者と報告細菌数を可視化する方法へ変更

細菌報告後は早期に介入を行い結果も含め報告し、注意点などをフィードバックしている。

委員会で検討・注意喚起を行う事で感染防止に繋がっている。

- ・ 薬剤室より、抗菌薬・消毒剤使用状況報告

抗菌薬使用状況などから、病棟毎の特殊性を把握し感染症に関する治療や抗菌薬使用を可視化する事で、感染状況や治療に繋げる事が出来ている。

今後は、抗菌薬使用状況から適正使用であるかなども介入する指標作成を行う。

- ・ I C T よりラウンド状況報告

院内環境巡視を通し、院内の感染対策実施状況の把握が出来ている。

今後は、病院全体で改善が必要な部分について感染対策室を中心に取り組む。

- ・ 院内感染防止対策研修会（年 2 回）

流行を踏まえて必要な研修を実施。参加者の参加型実践研修を行う事で現場に活用できている。今後も現場の声を踏まえた研修を行っていく。

栄養管理委員会

1. 活動目的

病院給食が合理的に運営されるために栄養管理委員会を開催し、患者の適正な栄養管理を行い、医療の質の向上を計ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	佐々木 都子（内科副部長）	
メンバー	鳥谷部 翔（薬剤師長）	阿部 早苗（薬剤師）
	阿保 文子（臨床検査技師長）	三國谷 恵美子（看護部長）
	成田 知佳子（看護師）	工藤 加奈子（看護師）
	横濱 岳（看護主任）	高阪 理恵（看護師）
	菊池 美里（看護師）	原子 美喜子（看護師）
	工藤 江利香（看護師）	寺地 恵子（看護師）
	今井 真子（看護師）	村上 直美（看護師）
	三上 知彦（看護師）	小山内 理恵（看護師）
	松山 哲子（言語聴覚室室長）	佐々木 哲裕（医事係主任）
	須藤 貴子（栄養士・日清医療食品）	
	鳴海 悦子（管理栄養士長）	藤田 佳子（主任管理栄養士）
	田澤 亜巳（管理栄養士）	三浦 みこと（管理栄養士）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 4 月 6 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、診療報酬改定に伴う特別食加算の取り扱いについて、新年度の栄養管理委員会・NST 委員の構成
2	平成 28 年 5 月 6 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、春の食事会、塩分チェック表記入について、院内「栄養補助食品一覧表」改訂
3	平成 28 年 6 月 1 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、春の食事会反省、NST 勉強会、メディカルスタッフ勉強会、塩分チェック表について、お茶用ポットの取り扱いについて
4	平成 28 年 7 月 6 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、栄養管理計画書の運用、移動食事カレンダーの入力について、塩分チェック集計報告
5	平成 28 年 8 月 3 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、お盆外泊時の移動食事カレンダー変更について、給食における病棟での衛生管理、マグカップ数不足について
6	平成 28 年 9 月 7 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、秋の食事会、栄養教室年間予定表、アイソカルサポートと REF-P1 注入について

7	平成 28 年 10 月 5 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、秋の食事会反省、NST 勉強会、青森県 NST 勉強会、再入院時の移動食事カレンダーの入力について、備蓄粥の提供
8	平成 28 年 11 月 2 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、発熱、嘔吐時の対応について
9	平成 28 年 12 月 7 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、クリスマス食事会、感染性胃腸炎疑い時のマニュアルについて
10	平成 28 年 1 月 4 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、クリスマス食事会反省、次年度の食事会予定
11	平成 28 年 2 月 1 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、節分の早配膳について、JSPEN 予演会、補助食品新規採用について
12	平成 28 年 3 月 1 日	栄養教室日程、栄養指導件数報告、NST 報告、アンケート調査結果、行事食、次年度の栄養管理委員会・NST の委員構成、次年度の栄養教室日程

4. 活動要約

- ・食事会や行事食は例年通り実施。
- ・栄養教室の開催場所として 10 月から 4 病棟を追加。
- ・外来栄養指導の体制を見直した事で、昨年に比べ指導件数が増加した。
年間件数 112 件（※前年度 12 件）
- ・食事アンケートでは満足・やや満足度が 51%と変わらず低かった（前年度比-1%）
今後も献立や味付け等を工夫し、満足度の向上に繋げていく。

褥瘡対策委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	岩田 学	(副院長)		
副委員長	栗嶋 昭子	(看護師)		
メンバー	三國谷恵美子	(看護部長)	工藤 妥恵	(看護師)
	船水 梨沙	(薬剤師)	白川 笑美子	(看護師)
	藤田 佳子	(管理栄養士)	須藤 恵美子	(看護師)
	伊藤 純子	(看護師)	宮野 麻莉	(看護師)
	小野 るり子	(看護師)	浅利 尚美	(リハ主任)
	三上 知彦	(看護師)	小野 公久	(リハ主任)
	桑村 美佳	(看護師)	北川 絵	(医事課)
	相馬 初美	(看護師)	菊池 真	(企画運営課)
	加藤 早苗	(看護師)		

3. 委員会開催のまとめ

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 4 月 27 日	4 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 3 月分のリスク因子の評価について報告 新年度の目標、新スタッフの自己紹介を実施
2	平成 28 年 5 月 25 日	5 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 4 月分のリスク因子の評価について報告
3	平成 28 年 6 月 22 日	6 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 5 月分のリスク因子の評価について報告
4	平成 28 年 7 月 27 日	7 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 6 月分のリスク因子の評価について報告
5	平成 28 年 8 月 24 日	8 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 7 月分のリスク因子の評価について報告
6	平成 28 年 9 月 28 日	9 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 8 月分のリスク因子の評価について報告

7	平成 28 年 10 月 26 日	10 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 9 月分のリスク因子の評価について報告
8	平成 28 年 11 月 30 日	11 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 10 月分のリスク因子の評価について報告
9	平成 28 年 12 月 28 日	12 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 11 月分のリスク因子の評価について報告
10	平成 29 年 1 月 25 日	1 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 12 月分のリスク因子の評価について報告
11	平成 29 年 2 月 22 日	2 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 1 月分のリスク因子の評価について報告
12	平成 29 年 3 月 22 日	3 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 2 月分のリスク因子の評価について報告 反省点、来年度へ向けての目標について発表報告会を実施

4. 活動要約

- ・ 定例委員会において、各病棟での褥瘡発生状況と治療経過について確認検討した。
 - ・ 定例委員会において、体位交換枕等の使用状況について確認した。
- 1) リハスタッフ、栄養士、薬剤師がその専門性を生かし、予防や栄養補助食品、薬剤に関する情報を積極的に提供していく。
 - 2) 褥瘡に関する研修会への参加を促進する。
 - 3) 定例委員会で勉強会を開催する。
 - 4) 褥瘡に関する病棟スタッフ間での質問や話し合いが活発になるように、褥瘡対策委員が積極的に啓蒙活動を行う。

臨床検査適正化検討委員会

1. 活動目的

本委員会は、当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とする。

2. 構成員

委員長	萩井 譲士（内科副部長）	
メンバー	保嶋 実（院長）	清野 聡（医局長）
	阿保 文子（臨床検査技師長）	倉内 寿孝（主任薬剤師）
	横山 純子（看護師長）	毛利 暢子（看護主任）
	今 基（医事課長補佐）	伊藤 佳織（医事係主任）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 4 月 20 日	精度管理結果報告、精度管理参加報告、新研究検査開始報告
2	平成 28 年 5 月 18 日	精度管理実施報告、生化学自動分析装置用試薬の検討、中止検査の項目報告
3	平成 28 年 6 月 15 日	精度管理結果報告、精度管理実施報告、血液凝固検査装置（システム更新）
4	平成 28 年 7 月 20 日	精度管理結果報告、精度管理実施報告、血液ガス分析装置ソフトウェア更新 生化学自動分析装置定期点検、外部委託検査機関選定の検討
5	平成 28 年 8 月 17 日	精度管理結果報告
6	平成 28 年 9 月 21 日	精度管理実施報告、凝固検査機器の学術研修、装置実習参加
7	平成 28 年 10 月 19 日	精度管理実施報告（新規）
8	平成 28 年 11 月 16 日	精度管理実施報告、精度管理参加報告、血液型判定機器点検、 乾式臨床化学分析装置、血糖測定器定期点検、遺伝子検査マニュアル作成
9	平成 28 年 12 月 21 日	精度管理実施報告、遺伝子検査マニュアル完成
10	平成 29 年 1 月 18 日	精度管理実施報告、多項目自動血球分析装置システム更新、 院内検査項目の検討
11	平成 29 年 2 月 15 日	精度管理実施報告、検体検査システム定期点検実施
12	平成 29 年 3 月 15 日	精度管理実施報告、精度管理結果報告、 全自動免疫測定装置の機器更新、血糖測定器メンテナンス実施（不具合器があったため）

3. 活動要約

- ・ 検査データの精度の向上に努める
- ・ 最新の検査項目の提供
- ・ 検査機器の保守、新機種の検討
- ・ 研究活動
- ・ 治験への参加協力

薬事審議委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医薬品の採用及び削除に関して審議し、医薬品適正使用を目的に活動するものである。

2. 構成員

委員長	清野 聡（医局長 兼 薬剤室長・医薬品情報室長）
委員	岩田 学（副院長）
	内沢 隆充（脳神経外科部長）
	目時 典文（内科副部長）
	鳥谷部 翔（薬剤師長）【事務局】
	藤田 尚子（医薬品情報室副室長）
	工藤 雅令（事務部長）
	工藤 博人（企画運営課長）
	今 基（医事課長補佐）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 4 月 11 日	①平成 28 年度 規定、委員変更の確認 ②アムロジピン・アルトバスタチン合剤の採用検討 ③リクシアナ錠採用規格の検討 ④患者限定採用⇒本採用への検討 ⑤採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ⑥後発医薬品採用割合報告
2	平成 28 年 5 月 9 日	①採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ②後発医薬品採用割合報告 ③薬価改定に伴う見積りについて
3	平成 28 年 6 月 13 日	①薬価改定に伴う「主要薬」の検討について ②薬価改定に伴う「後発品」の検討について ③薬価改定に伴う「メーカー」の検討について ④薬価改定に伴う「剤形・規格」の検討について ⑤薬価改定に伴う「その他申請薬」の検討について ⑥採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ⑦後発医薬品採用割合報告
4	平成 28 年 7 月 11 日	①ジプレキサ錠の後発品検討 ②採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ③後発医薬品採用割合報告
5	平成 28 年 8 月 8 日	①採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ②後発医薬品採用割合報告 ③その他(テバ製薬の社名変更予定について)

6	平成 28 年 9 月 12 日	①ハベカシン注射薬の後発品検討 ②リクシアナ錠 30mg の検討 ③プレセデックスの検討 ④採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ⑤後発医薬品採用割合報告
7	平成 28 年 10 月 17 日	①採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ②後発医薬品採用割合報告 ③その他(武田テバファーマの流通の遅れについて)
8	平成 28 年 11 月 14 日	①ニフェジピンC R の先発品検討 ②サラザック配合顆粒の先発品検討 ③採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ④後発医薬品採用割合報告 ⑤その他(使用期限切れ製品販売報告：青森市内の調剤薬局)
9	平成 28 年 12 月 12 日	①冠動脈造影用 370 注射剤の検討について ②ミオコールスプレーの検討について ③アジルバ錠の検討について ④ビムパット錠の本採用の検討について ⑤採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ⑥後発医薬品採用割合報告 ⑦その他(わかもと製薬『ウロキナーゼ注「フジ」60,000』の販売中止)
10	平成 29 年 1 月 16 日	①アセリオ静注液 1000 の検討 ②アムロジピンOD錠の検討 ③採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ④後発医薬品採用割合報告 ⑤その他(せん妄、暴れる患者への処方薬)
11	平成 29 年 2 月 13 日	①ビソノテープの本採用の検討 ②ボルベンの本採用の検討 ③タゾピペの本採用の検討 ④採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ⑤後発医薬品採用割合報告 ⑥その他(前回保留事項の決定について)
12	平成 29 年 3 月 13 日	①パーキンソン病関連薬の検討 ②イソジンガーグルの後発品検討 ③採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 ④後発医薬品採用割合報告

4. 活動要約

- ・ 事務局である薬剤室薬剤師が各製造販売会社ホームページ、MR訪問、添付文書やインタビューフォームなどから情報を入手、資料を作成し薬事審議委員会にて審議する。
- ・ 県内医療機関の採用状況及び流通を定期的に聴取し評価する。
- ・ 採用中の先発医薬品の中で①適応に違いがない、②形状や大きさが先発と似ている、③後発医薬品のみの特徴がある、など変更可能と考えられる医薬品を積極的に後発品に切り替える。新規採用の場合でも可能であれば後発医薬品とする。
- ・ 新規採用薬、採用変更及び中止薬を院内に回覧し周知する。
- ・ デッドストック情報を毎月共有し不良在庫にならないようにする。
- ・ 後発医薬品採用割合を、毎月チェックする。
- ・ 問題発生があれば速やかに薬事審議委員会に報告し採用継続の適否を検討する。

電子保存システム管理委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンターに電子保存システム管理委員会を設け、診療録および電子保存システムの適正な管理、運用を行うことを目的とする。

2. 構成員

委員長	保嶋 実（院長）	
メンバー	鎌田 孝篤（副院長）	岩田 学（副院長）
	白戸 弘志（内科医長）	三國谷 恵美子（看護部長）
	成田 京子（看護師長）	山田 まり子（看護師長）
	工藤 留美子（看護師長）	金崎 真紀子（看護師長）
	小笠原 美幸（看護師長）	小田桐 千代（看護師長）
	横山 純子（看護師長）	中田 智子（看護師長）
	三浦 順子（リハビリテーション部技師長）	須藤 真史（理学療法室長）
	算用子 暁美（作業療法室長）	松山 哲子（言語聴覚室長）
	土岐 敏子（医療相談室長）	鳥谷部 翔（薬剤師長）
	藤田 尚子（医薬品情報室副室長）	川村 隆行（診療放射線技師長）
	阿保 文子（臨床検査技師長）	鳴海 悦子（管理栄養士長）
	小林 正志（事務局長）	工藤 雅令（事務部長）
	奈良 富士子（事務部次長）	工藤 博人（企画運営課長）
	蒔苗 寿治（施設管理課長）	今 基（医事課長補佐）
	立林 修（庶務課長・運用責任者）	盛 啓介（医療情報係係長・システム管理者）
	佐々木 哲裕（医事係主任・診療録管理者）	

3. 委員会開催記録

・電子保存システム管理委員会

毎月第2水曜日 16:00～（医療安全管理委員会終了後）

診療録・電子カルテシステム等の管理、運用等に関する事項の検討

各部署委員 32名

主な活動内容

回	日付	内容
1	平成28年4月13日	・4月診療報酬改定への電子カルテのプログラム交換
2	平成28年5月11日	・新電子カルテ導入検討委員会の進捗報告
3	平成28年6月8日	・電子カルテシステムワーキンググループ（WG）の設立について ・職員健康診断用患者IDのセキュリティ設定 ・診断書等の生年月日表記を西暦から和暦に変更 ・新電子カルテ導入検討委員会の進捗報告

4	平成 28 年 7 月 13 日	・入院決定オーダー内の「担当情報」「食事情報」の非表示化 ・血液製剤使用同意書の製剤名修正 ・病棟患者の神経内科受診の運用について
5	平成 28 年 8 月 10 日	・入院決定オーダー内の「担当情報」「食事情報」の再表示化 ・「輸血・血漿分製剤看護管理表」の追加適用 ・救急患者受入れ時にレセコン患者登録が電子カルテ患者氏名に反映されない場合の対応について ・患者 ID 二重登録時の対応について
6	平成 28 年 9 月 14 日	・医療事故該当性チェックシートの電子カルテ上での運用開始 ・H28 年度報酬改定対応の看護必要度プログラムの更新
7	平成 28 年 10 月 12 日	・目標設定管理シート及び管理料算定に伴うリハシステムプログラムの更新 ・データ提出加算の要件変更による看護必要度プログラム更新 ・肺機能検査の運用開始 ・漏電検査及び電子カルテサーバー再起動に伴うカルテ端末利用停止について
8	平成 28 年 11 月 9 日	・リハビリ処方画面内「障害名」の入力必須化
9	平成 28 年 12 月 14 日	・「薬剤総合評価調整加算」のためのテンプレートおよび指導料項目追加について
10	平成 29 年 1 月 11 日	・「経皮的脳血管形成術」項目を追加について ・紹介状に添付する画像の印刷方法について ・委員会の変更案について
11	平成 29 年 2 月 8 日	・治験用セットオーダー作成について ・患者カルテ作成時点で患者情報未確認の場合の事後入力処理について ・救急患者カルテの看護師記録の参照について ・入院診療計画書テンプレートの「日付」自動入力の仕様変更 ・他院画像ディスクデータの取込運用について ・歯科衛生士の電子カルテ記録について
12	平成 29 年 3 月 8 日	・診療記録管理委員会、(新) 電子保存システム管理委員会の委員選出および臨時委員会の開催について ・経皮的末梢血管形成術のオーダー及びパスオーダーの登録・運用開始について ・部屋移動に伴う端末の移設について

DPCコーディング委員会

1. 活動目的

本委員会は、標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう。）を行う体制を確保することを目的とする。

2. 構成

委員長	医療部	鎌田 孝篤（副院長）
メンバー	医療部	清野 聡（医局長）
		萩井 譲士（内科副部長）
		鳥谷部 翔（薬剤師長）
		三國谷 恵美子（看護部長）
看護部		成田 京子（看護師長）
		金崎 真紀子（看護師長）
		今 基（医事課長補佐）
事務部		佐々木 哲裕（医事係主任／診療記録管理者）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 4 月 25 日	・平成 28 年度診療報酬改定に伴うデータ提出加算変更点の報告 ・適切なコーディングのための方策について ・委員会規程の改訂について
2	平成 28 年 10 月 31 日	・適切なコーディングのための方策について

4. 活動要約

- ・ サマリをはじめとした診療記録及びデータ提出における入力内容の確認。

倫理委員会

1. 活動目的

本委員会は、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医学・医療の倫理的問題について協議するとともに、病院長又は医療部長の諮問を受けて、当院に所属する者が当院において行う医療行為、医学研究及び教育等が医の倫理に関するヘルシンキ宣言等の趣旨に沿って倫理的配慮の下に行われるか審査する。

2. 構成員

委員長 松本 茂男（副院長）

メンバー 鎌田 孝篤（副院長）

清野 聡（医局長）

三國谷 恵美子（看護部長）

【病院外部の学識経験者】

弘前大学大学院保健学研究科看護学領域

教授 長内 智宏

青森県立保健大学健康科学部理学療法学科

准教授 勘林 秀行

元弘前大学医学部保健学科 教授

二唐 東朔

社会保険労務士 石塚 紀子

【事務局】

立林 修（庶務課長）

3. 活動記録

A 審議あり（変更申請を除く新規申請のみ表示）

承認日	研究名	申請者
平成 28 年 5 月 2 日	脳卒中後遺症患者の臨床経過と Q O L の関係	弘前大学大学院保健学研究科 教授 長内 智宏
平成 28 年 5 月 12 日	回復期脳卒中患者の疼痛、抑うつ症状および健康関連 Q O L に関連する要因の調査	内科副部長 萩井 譲士
平成 28 年 6 月 24 日	回復期リハビリテーション病棟における脳血管障害患者の再発予防行動獲得プログラムの開発	弘前大学大学院保健学研究科 准教授 藤田あけみ
平成 28 年 10 月 17 日	非弁膜症性心房細動を有する後期高齢患者を対象とした前向き観察研究（ANAFIE Registry）	内科副部長 萩井 譲士
平成 28 年 10 月 17 日	アジアにおける心房細動患者の脳卒中予防に関する臨床調査	内科副部長 萩井 譲士
平成 28 年 10 月 17 日	病院到着前脳卒中スコアによる脳卒中病型分類のための研究	内科副部長 齋藤 新
平成 28 年 10 月 17 日	排泄活動自立へ向けたフローチャート導入の効果	作業療法士 今井 寛人

平成 28 年 11 月 7 日	脳卒中片麻痺患者の麻痺側下肢への末梢神経電気刺激療法と課題指向型練習の併用治療がパフォーマンス能力に与える影響	理学療法士 小田桐 伶
平成 28 年 11 月 7 日	脳卒中患者における脳卒中後うつ病（Post-stroke depression：PSD）と疼痛の関係	作業療法士 齋藤 峻
平成 29 年 3 月 16 日	脳卒中入院患者の Q O L に影響する因子について	弘前大学大学院保健学研究科 教授 長内 智宏
平成 29 年 3 月 16 日	急性期脳卒中患者における血小板自然凝集の規定因子解析	弘前大学大学院保健学研究科 教授 長内 智宏
平成 29 年 3 月 16 日	脳主幹動脈急性閉塞／狭窄に対するアピキサバンの効果に関する観察研究（ALVO）	内科副部長 萩井 譲士
平成 29 年 3 月 16 日	脳卒中研究者新ネットワークを活用した脳・心血管疾患における抗血栓療法の実態と安全性の解明（BAT2）	内科副部長 目時 典文
平成 29 年 3 月 16 日	非弁膜症性心房細動とアテローム血栓症を合併する脳梗塞例の二次予防における最適な抗血栓療法に関する多施設共同ランダム化比較試験（ATIS-NVAF）	内科副部長 目時 典文
平成 29 年 3 月 16 日	運動療法と末梢神経電気刺激療法の併用治療による脳卒中片麻痺患者の下肢機能および動作能力改善の可能性に関する検討	理学療法士 小田桐 伶
平成 29 年 3 月 16 日	脳卒中片麻痺患者における後方平板支柱付き短下肢装具（APS-AFO）と油圧制動付き短下肢装具（GS）の歩行特性についての検討	理学療法士 小田桐 伶

B 審議を必要としないもの（委員長決裁）

承認日	研究名	申請者
平成 28 年 6 月 14 日	入院中の FIM 得点の変化に影響する因子の検討	理学療法士 山本 賢雅
平成 28 年 7 月 8 日	感染症介入データベース作成	薬剤室主任 倉内 寿孝
平成 28 年 9 月 23 日	脳卒中患者に対する歩容評価表の検者間信頼性の測定	理学療法士 奈川 英美
平成 28 年 12 月 28 日	AICON 薬剤師部会 カルバペネム系用量適正化プロジェクト	薬剤室主任 倉内 寿孝
平成 28 年 12 月 28 日	脳卒中回復期患者の口腔衛生評価法確立に向けた基礎検討	歯科衛生士 清水 瞳
平成 29 年 1 月 12 日	DPP-4 阻害薬服用患者における週 1 回製剤のニーズに関する意識調査アンケート	薬剤師長 鳥谷部 翔

4. 活動要約

- ・倫理審査は、紙上にて実施し、各委員が審査の上、必要に応じて申請者へ質問、指摘を行った。また、不備な点については、修正、追加の上再申請を求めた上で再審査した。
- ・平成 28 年度 新規研究申請件数
審議あり：16 件、審議なし（委員長決裁）：6 件
※申請された研究はすべて承認
- ・その他、4 月 28 日付けで臨時紙上委員会を行い、倫理審査申請書における同意撤回時の対応に関する記述方法について審議し、5 月 25 日付けで決定、承認された。

衛生委員会

1. 活動目的

衛生委員会の構成、運営、調査審議事項などを定め、衛生管理活動の円滑な推進を図ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	保嶋 実	院長 (衛生管理者)
	人見 博康	内科部長 (産業医)
	清野 聡	医局長 (衛生管理者)
	松本 茂男	副院長
	工藤 雅令	事務部長
	三國谷 恵美子	看護部長
	成田 幸英	看護主任
	毛利 暢子	看護主任
	三浦 順子	リハビリテーション部技師長
	川村 隆行	診療放射線技師長
	算用子 暁美	作業療法室長
	嵯峨 望	庶務係主任
	立林 修	庶務課長

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 4 月 27 日	感染症罹患状況、労災事故、春の健康診断実施、産業医の巡回（ごみ収集庫、不潔リネン庫）他について報告および確認を行った。 感染症については、インフルエンザの罹患状況と面会制限等について報告があった。
2	平成 28 年 5 月 25 日	感染症罹患状況、労災事故、産業医の巡回（事務室、栄養室）他について報告および検討を行った。
3	平成 28 年 6 月 29 日	感染症罹患状況、労災事故、産業医の巡回（5 病棟・感染対策室）他について報告および検討を行った。 平成 28 年度メンタルヘルス研修会の日程、講師について決定した。
4	平成 28 年 7 月 27 日	感染症罹患状況、労災事故、産業医の巡回（1 病棟）他について報告および検討を行った。 ストレスチェックの実施スケジュールと規程案作成の進捗について確認した。
5	平成 28 年 8 月 31 日	感染症罹患状況、労災事故、産業医の巡回（厨房、施設管理課別棟）他について報告した。メンタルヘルス研修会の日程、講師について回覧配付を行うこととした。

6	平成 28 年 9 月 28 日	感染症罹患状況、労災事故、秋の職員健診、ストレスチェック実施、産業医の巡回（4 病棟）他について報告および検討を行った。 メンタルヘルス研修会開催：9 月 26 日、講師 古郡規雄先生
7	平成 28 年 10 月 26 日	感染症罹患状況、労災事故、秋の健康診断他について報告した。 前月行ったメンタルヘルス研修会のアンケート結果について資料を配付し、報告した。
8	平成 28 年 11 月 30 日	感染症罹患状況、労災事故、秋の健康診断、産業医の巡回（3 病棟）他について報告した。 ストレスチェックの実施集計が完了し、受検率、高ストレス判定率などについて結果報告した。
9	平成 28 年 12 月 28 日	感染症罹患状況、労災事故、産業医の巡回（2 病棟）他について報告した。 ストレスチェックの実施結果の個人配付が完了し、結果提供の同意書、医師面談申出書の提出の流れや締切日等について確認した。
10	平成 29 年 1 月 25 日	感染症罹患状況、労災事故、産業医の巡回（居宅・訪問・地域連携室、リハ棟訓練室、歯科）他について報告および検討を行った。 今年度の健康診断結果をまとめ、昨年度との比較結果について資料配付し報告した。ストレスチェックの面接指導希望者数について報告した。
11	平成 29 年 2 月 22 日	感染症罹患状況、労災事故について報告および検討をした。
12	平成 29 年 3 月 30 日	感染症罹患状況、労災事故、産業医の巡回（外来・処置室・超音波室・内視鏡室）について報告および検討をした。 次年度委員構成案について検討し、承認された。

4. 活動要約

- ・事業者側と雇用者側からの委員構成で職場環境の点検と対策について検討した。
- ・感染症罹患状況の把握と休養の指導をした。
- ・前年度に引き続き、冬の路面凍結による転倒事故防止対策として、職員通用口付近に融雪および電気マットを敷き、注意喚起の回覧、掲示を実施した。
労災事故件数 骨折 1 件、打撲 2 件、針刺し 2 件、腰痛他 2 件
- ・産業医の巡回による職場環境の点検および指摘事項の検討をした。
- ・健康診断で所見のあった職員へのフォローアップをした。
春の受診者数 180 名、指示人数 44 名（24%）
秋の受診者数 407 名、指示人数 44 名（11%）
- ・メンタルヘルスケアについて年 1 回の研修会の実施
講演：「勤労者のメンタルヘルス ～ありのままで～」／開催：9 月 26 日～30 日
講師：弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座 准教授 古郡規雄 先生、参加者 348 名
- ・ストレスチェックの実施の結果：受検率 96%、受験者に占める高ストレス判定者の割合 17%

部署代表者委員会

1. 活動目的

本委員会は、当財団が少しでも働きやすい環境となるよう、就業規則等の作成・変更にあたっての意見や要望を職員から聴取・集約した上で、財団との交渉や、財団が必要とする意見交換に応じ、法令で定められた書面による財団との協定の締結・変更及び解約を行うことを目的とする。

2. 構成員

委員長	診療部代表	川村 隆行（診療放射線技師長）
メンバー	医局代表	佐々木 都子（内科副部長）
	看護部代表	吉田 美奈（看護主任）
		三上 小夜香（看護主任代行）
	リハビリテーション部代表	浅利 尚美（リハ主任）
		三浦 康彦（理学療法士）
	事務部代表	佐々木 哲裕（医事係主任）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 4 月 1 日	3 月 10 日付での就業規則等の一部改正事項ならびに 3 月 28 日付で締結した平成 28 年度の時間外労働及び休日労働に関する協定書と定期昇給・賞与支給率についての協定書を、3 月 30 日に弘前労働基準監督署へ提出した旨を示す書面の写しを各部署に回覧した。
2	平成 28 年 5 月 25 日	職員から就業規則に関する意見や要望を委員会に対して伝えやすい環境とするため、「意見箱」の設置を検討した。
3	平成 28 年 6 月 2 日	委員長が職員代表者として適任であるか各部署に確認するための書面を回覧した。
4	平成 28 年 7 月 12 日	6 月 2 日付で回覧した書面を回収・確認した結果、過半数以上の職員から賛同を得られたことを各部署へ文書にて報告した。
5	平成 28 年 7 月 21 日	5 月 25 日に検討した「意見箱」の設置に関して施設運用委員会からの承認が得られたため、男子更衣室と女子更衣室に設置し各部署へ文書にて周知した。
6	平成 28 年 9 月 28 日	就業規則等の一部改正及び覚書について意見を文書で提出するよう財団より委員会へ依頼あり。⇒委員会から異議なし。
7	平成 28 年 10 月 13 日	9 月 28 日付での就業規則等の一部改正事項を 10 月 12 日に弘前労働基準監督署へ届出したことを財団より報告を受け、届出した旨を示す書面の写しを各部署に回覧した。
8	平成 29 年 1 月 4 日	法改正に伴い、育児・介護休業等に関する協定書を新たに財団と締結した。また、就業規則等の一部改正について意見を文書で提出するよう財団より委員会へ依頼あり。⇒委員会から異議なし。

9	平成 29 年 1 月 24 日	1 月 4 日付での就業規則等の一部改正事項を 1 月 23 日に弘前労働基準監督署へ届出したことを財団より報告を受け、届出した旨を示す書面の写しを各部署に回覧した。
10	平成 29 年 3 月 22 日	平成 29 年度の時間外労働及び休日労働に関する協定書ならびに定期昇給・賞与支給率についての協定書を財団と締結した。

4. 活動要約

平成 28 年度は「意見箱」の設置により、職員から色々な意見や要望を寄せて頂き、働く環境への不満な部分を確認する事が出来るため、今後は就業規則が見直しやすくなる可能性が高い。これを機に、職員が少しでも気持ち良く業務に従事出来るような体制作りを進めて行きたいと考えている。

教育研修委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける職員の学習を奨励し、①職業人として自己を研鑽する姿勢を身につける、②医療人として患者のために奉仕する心を学ぶ、③プロフェッショナルとして個々の知識、スキルを高めるための支援、及び環境調整をするものである。

2. 構成員

委員長	岩田 学（副院長）	
副委員長	人見 博康（内科部長）	三浦 順子（リハビリテーション部技師長）
メンバー	鳥谷部 翔（薬剤師長）	阿保 文子（臨床検査技師長）
	川村 隆行（診療放射線技師長）	鳴海 悦子（管理栄養士長）
	工藤 留美子（看護師長）	山田 まり子（看護師長）
	金崎 真紀子（看護師長）	中村 学人（理学療法士）
	増田 大起（作業療法士）	宇佐美 夏希（医療相談員）
	立林 修（庶務課課長）	桑田 武人（財務経理係長）
	濱中 麻里（医事課）	

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 4 月 22 日	出張旅費・学術助成費予算について 今年度講演会・講習会の予定について 職員表彰の選出方法について
2	平成 28 年 5 月 27 日	学会予定表の提出 施設間勉強会の予定内容報告
3	平成 28 年 6 月 24 日	出張旅費・学術助成費報告時期について 糖尿病療養指導チームの立ち上げについて メディカルスタッフ勉強会の報告
4	平成 28 年 7 月 22 日	メディカルスタッフ勉強会の報告 職員表彰について
5	平成 28 年 8 月 26 日	施設間勉強会開催報告 職員表彰選考方法の報告 メディカルスタッフ勉強会の報告
6	平成 28 年 9 月 23 日	施設間勉強会の次回予定報告 職員表彰について メディカルスタッフ勉強会の報告
7	平成 28 年 10 月 28 日	職員表彰について 施設間勉強会の進捗状況について メディカルスタッフ勉強会の報告

8	平成 28 年 11 月 25 日	施設間勉強会報告 職員表彰について メディカルスタッフ勉強会の報告
9	平成 28 年 12 月 16 日	施設間勉強会報告と今後の計画について 回復期リハ予演会について 人材育成の対象検討依頼 職員表彰方法の見直しについて
10	平成 29 年 1 月 27 日	研修旅費・学術助成費について 看護部で e ラーニング開始の報告 メディカルスタッフ勉強会の報告 次年度の研修旅費・学術助成費について
11	平成 29 年 2 月 24 日	今年度の新年度研修旅費・学術助成費執行状況報告と補正額・次年度案について メディカルスタッフ勉強会の報告 戦略的人材育成費について
12	平成 29 年 3 月 24 日	平成 28 年度助成費執行状況報告 戦略的人材育成費決定報告 メディカルスタッフ勉強会の報告 次年度出張旅費の規程変更報告 学術奨励賞について

4. 活動要約

- ・ 出張旅費と学術助成の計画と執行状況の確認をした。
- ・ 戦略的人材育成を計画した。
- ・ 施設間勉強会を企画し、無事に実施することができた。
- ・ メディカルスタッフ勉強会を企画し、年間を通して行った。
- ・ 職員表彰の方法を見直した。

施設運用委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター(以下「センター」という。)における施設運用についての意見及び要望について検討し、その適正化を図ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	岩田 学 (副院長)
メンバー	清野 聡 (医局長)
	三國谷 恵美子 (看護部長)
	横山 純子 (看護師長)
	三浦 順子 (リハビリテーション部技師長)
	川村 隆行 (診療放射線技師長)
	工藤 雅令 (事務部長)
	蒔苗 寿治 (施設管理課長)

3. 活動記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 4 月 6 日	・脳ドックの控室について ・部屋の点検表について
2	平成 28 年 5 月 11 日	・部屋の点検表について審議検討した。
3	平成 28 年 6 月 1 日	・部屋の点検表について審議検討した。 ・休日のへりポートの周知について ・職員代表者への意見箱設置について
4	平成 28 年 7 月 6 日	・部屋の点検表について審議検討した。 ・ラウンジとホワイエのテーブルとイスの増設について ・職員代表者への意見箱設置について
5	平成 28 年 8 月 3 日	・部屋の点検表について審議検討した。 ・肺機能検査室について
6	平成 28 年 9 月 7 日	・ガラス清掃前の網戸清掃について ・漏電検査 (3 年毎) 開閉器の交換工事 (10 年毎) について ・骨密度室を肺機能検査室へ用途変更について
7	平成 28 年 10 月 5 日	・今年度 2 回目の点検表について ・漏電検査、開閉器交換工事について ・冷房から暖房へ切り替え作業について
8	平成 28 年 11 月 2 日	・部屋の点検表について審議検討した。 ・おむつ替えスペースの設置について ・施設管理課への伝票置き場について ・医局周辺の部屋の配置換えについて

9	平成 28 年 12 月 7 日	・ 部屋の点検表について審議検討した。 ・ 医局周辺の部屋の配置換えについて ・ 結露対策について
10	平成 29 年 1 月 4 日	・ 副院長室、看護部長室、リハ主任室移動について ・ 医学研究室兼治験管理室について ・ 結露対策について
11	平成 29 年 2 月 1 日	・ 3 病棟スタッフルームのコピー機と書類について ・ 物品庫内の薬品庫の隙間について ・ 医療ガスの保守点検について
12	平成 29 年 3 月 1 日	・ 副院長室、看護部長室、リハ主任室の移動について ・ 医局内のレイアウトについて ・ メモリアルホール側の無断離院防止対策について

4. 活動要約

- ・ 各部屋の責任者を選任し年 2 回の点検および改善・対策をした。
- ・ 休日のヘリポート運用の周知を行った。
- ・ 副院長室、看護部長室、リハ主任室の移動を行った。
- ・ 結露対策として断熱シートを使用した。
- ・ 医学研究室兼治験管理室を設置した。
- ・ 医局内のレイアウトの変更を行った。
- ・ 漏電検査及び開閉器の交換工事を行った。

広報委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター(以下「センター」という。)の医療情報の広報を的確に推進するため、センターに広報委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2. 構成員

委員長	岩田 学（副院長）
メンバー	目時 典文（内科副部長）
	三國谷 恵美子（看護部長）
	三浦 順子（リハビリテーション部技師長）
	鳥谷部 翔（薬剤師長）
	立林 修（庶務課長補佐）

3. 活動記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 5 月 23 日	・ Web 版脳卒中教室についてコンテンツの見直しを図る旨の報告があった。 ・ 年報についての進捗状況報告があった。 ・ 今年度の市民公開講座について、4 月に実行委員会を立ち上げ、準備中との報告があった。開催予定日は 9 月 25 日（日）
2	平成 28 年 7 月 25 日	・ ホームページについて、次年度求人情報についての報告があった。 ・ 年報についての進捗状況報告があった。
3	平成 28 年 9 月 26 日	・ ホームページのアクセス数の集計を行うこととした。 ・ 年報についての進捗状況報告があった。 ・ 脳卒中市民公開講座の開催結果について報告があった。
4	平成 28 年 11 月 28 日	・ ホームページアクセス数と閲覧の傾向について報告があった。 ・ その他ホームページ更新の方針について検討した。 ・ 次年度の脳卒中市民公開講座の予定について報告があった。
5	平成 29 年 1 月 23 日	・ ホームページの更新について、事後報告があった。 ・ 年報の校正が完了し、1 月中公開予定とした。 ・ 次年度の脳卒中市民公開講座の開催日が 10 月 1 日（日）に変更となる旨の報告があった。
6	平成 29 年 3 月 27 日	・ ホームページのリクルート情報の更新について検討した。 ・ その他ホームページのコンテンツの追加・更新について検討した。 ・ 年報第 3 号の公開が完了し、次年度分の作成に向けて準備することとした。

4. 活動要約

- ・ホームページの充実、年報の作成、脳卒中市民公開講座の継続開催を軸に審議検討した。
- ・ホームページは、昨年度に引き続き、各コンテンツの定期的な更新を行った。
- ・弘前脳卒中・リハビリテーションセンター年報第3号（H27年度）が完成し、ホームページ上で公開。
- ・脳卒中市民公開講座 2016 を開催した。

平成 28 年 9 月 25 日（日） 弘前市民文化交流館大ホール（ヒロロ 4F） 参加者 116 名

患者サービス委員会

1. 活動目的

本委員会は、各部門が連携協調を図り、業務の円滑な処理および効率性を確保することにより、病院を利用する患者および患者の家族等（以下患者等）へのサービス向上に資することを目的とする。

2. 構成員

医療部	医局 医療安全推進室 感染対策室 診療放射線室 栄養室	松本 茂男（副院長） 鎌田 孝篤（副院長） 横山 純子（看護師長） 中田 智子（看護師長） 関 晃次郎（放射線技師） 鳴海 悦子（管理栄養士長）
看護部	1 病棟 2 病棟 3 病棟 4 病棟 5 病棟 外来	佐藤 奈奈（看護主任） 市崎 瑠璃子（看護師） 三上小夜香（看護主任） 田中 裕美（看護師） 千葉 順子（看護主任） 工藤 翔子（看護師） 吉田 美奈（看護主任） 齋藤 輝之（看護主任代行） 蒔苗 敦子（看護主任） 佐藤 輝美（看護師） 小田桐千代（看護師長）※委員長
リハ部	理学療法室 作業療法室 言語聴覚室 医療相談室	藤田 由香（リハ士長） 住吉 佳奈子（リハ主任） 福山 美佳（言語聴覚士） 工藤 慎（副室長）
事務部	医事課 企画運営課	柳沢 緑（医事係） 阿部 結菜（企画運営係）

3. 活動要約

・患者サービス委員会：

毎月第3木曜日 15：30～16：00

・活動内容

職員の患者等への対応サービスの向上に関すること
 患者等の院内活動にかかるサービス向上に関すること
 患者等からの苦情・意見の収集および対応に関すること
 ボランティアの受け入れおよび活動内容に関すること
 その他の医療サービスに関すること

4. 主なイベント

開催日	内容
平成 28 年 8 月 10 日	接遇研修「コミュニケーション能力を身につける」 講師：ファイザー株式会社 地域医療推進部 接遇専任トレーナー 金子 恵美 氏 80 名参加
平成 28 年 6 月中旬～7 月 9 日	七夕飾り
平成 28 年 6 月 27 日 平成 28 年 9 月 1 日	春の清掃活動（ゴミ拾い）42 名参加 秋の清掃活動（ゴミ拾い）48 名参加 清掃活動 6 月 16 日、9 月 9 日は悪天候にて中止
平成 28 年 12 月	クリスマスツリー飾り展示

5. 退院時患者アンケート・患者、家族からのご意見

ご要望の多い順

- ・ 食事内容（味付け・メニュー）に関する不満
- ・ 院内床屋に対する不満（接遇、技術、料金、環境）
- ・ 看護師に対する不満（接遇・連携不足）
- ・ 医師に対する不満（接遇・説明の仕方）
- ・ リハスタッフに対する不満（挨拶）
- ・ 警備員に対する不満（態度）
- ・ 環境に対する不満（湿気・廊下が滑る・表示）
- ・ N ' s キッチンに対する不満（メニュー・味付け）
- ・ その他：病衣に対する不満、治療スケジュール希望

6. 平成 28 年度まとめ

- ・ 計画した行事は予定通り実施できた。
- ・ 主に患者・家族からの苦情、ご意見に対し前向きに検討を進めてきた。
- ・ 入院患者が最も関心の高い「食事」に関する質の向上（味付け・メニュー）を目指して努力する。
- ・ 院内理容室に関しては、継続課題である。患者が安心して気持ちよく理髪できるように検討する。
- ・ 職員の接遇力の向上と連携・協調を深められるための研修会企画をしていく。
- ・ 環境等に関して、施設管理部門と連携し解決を図る。

NST(Nutrition Support Team)

1. 活動目的

本チームは、一般法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける、入院患者の栄養の向上と維持のために活動するものである。

2. 構成員

リーダー	佐々木都子（内科副部長）		
メンバー	鳥谷部 翔（薬剤師長）	阿部 早苗（薬剤師）	山内めぐみ（臨床検査技師）
	木村 俊太（臨床検査技師）	佐藤 志乃（看護主任）	齋藤 真貴（看護師）
	阿部 理子（看護師）	横濱 岳（看護主任）	高阪 理恵（専任看護師）
	中村 美里（看護師）	原子美喜子（看護師）	工藤 江理香（看護師）
	今井 真子（専任看護師）	三上 知彦（看護師）	阿保 智加（看護師）
	梶原江里奈（看護師）	原子 由（理学療法士）	斎藤 信一（リハ主任）
	宮川 具子（言語聴覚士）	一戸智沙都（医療相談員）	佐々木哲裕（医事係主任）
	藤田 佳子（主任管理栄養士）	鳴海 悦子（管理栄養士長）	田澤 亜巳（管理栄養士）
	三浦みこと（管理栄養士）		

3. 活動記録

1 病棟	毎週月曜日	13:00～
2 病棟	毎週金曜日	13:00～
3 病棟	月 1 回第 2 木曜日	16:00～
4 病棟	月 1 回第 2 木曜日	16:00～
5 病棟	月 1 回第 4 木曜日	16:00～

▼NST評価件数

	1 病棟	2 病棟	3 病棟	4 病棟	5 病棟
4 月	16	21	10	5	9
5 月	15	17	8	7	7
6 月	12	19	6	3	5
7 月	11	25	5	5	8
8 月	20	22	4	6	8
9 月	12	19	2	6	6
10 月	20	19	2	2	4
11 月	17	22	6	2	5
12 月	16	15	6	2	4
1 月	18	20	6	3	5
2 月	8	21	9	5	2
3 月	21	25	6	2	8
合計	186 件	245 件	70 件	50 件	71 件

4. 活動要約

- ・NSTによる加算算定は実施していないが、食事不振、栄養不良者、経鼻経管栄養対象者に関しての評価は継続して実施した。
- ・一般病棟でのNST対象者については、回復期病棟への転棟後も評価しているが、一般病棟では問題なかったが、回復期病棟転棟後に食欲不振になった患者の抽出なども継続して行われた。
- ・今年度はNST勉強会が以前に比べ多く行われた。

NST勉強会

「REF-P1の新たな機能」（10月7日）

「食物繊維と整腸剤併用により有用性について」（11月18日）

NST・褥瘡委員会合同勉強会

「コラーゲンと褥瘡」（6月24日）

「最新の褥瘡治療と適切な栄養の考え方」（3月9日）

ICT(Infection Control Team)

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける感染管理を担当する専門職によるグループで、院内ラウンドなどの活動を通して院内感染防止を目的として活動するものである。

2. 構成員

リーダー	清野 聡 (医局長)	サブリーダー	萩井 譲士 (内科副部長)
メンバー	中田 智子 (看護師長)	毛利 暢子 (看護主任)	
	阿保 文子 (臨床検査技師長)	倉内 寿孝 (主任薬剤師)	藤田 佳子 (主任管理栄養士)
リンクスタッフ	小笠原美幸 (看護師長)	大川 麻美 (看護主任)	赤石富士子 (看護師)
	漆沢 修治 (看護師)	工藤 直美 (看護師)	出町真知子 (看護師)
	三上 夏美 (看護師)	松川 千尋 (看護師)	渡部 牧子 (看護師)
	棟方 直子 (看護師)	中田 詩子 (看護師)	板垣 充子 (看護師)
	須藤 圭吾 (看護師)	澁谷 知樹 (看護師)	川村 隆行 (診療放射線技師長)
	花田 和大 (薬剤師)	木村 俊太 (臨床検査技師)	長谷川国俊 (リハ士長)
	中澤 幸恵 (作業療法士)	今 基 (医事課長補佐)	伊藤 佳織 (医事課主任)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 5 月 10 日	平成 27 I C T 活動の振り返り 平成 28 年度 I C T 活動計画 院内巡視結果報告・評価
2	平成 28 年 5 月 17 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
3	平成 28 年 5 月 24 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
4	平成 28 年 5 月 31 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認 (個人携帯)
5	平成 28 年 6 月 7 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
6	平成 28 年 6 月 13 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価

7	平成 28 年 6 月 21 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
8	平成 28 年 6 月 28 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯）
9	平成 28 年 7 月 5 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
10	平成 28 年 7 月 12 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
11	平成 28 年 7 月 19 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
12	平成 28 年 7 月 26 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯）
13	平成 28 年 8 月 2 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
14	平成 28 年 8 月 9 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
15	平成 28 年 8 月 16 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
16	平成 28 年 8 月 23 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
17	平成 28 年 8 月 30 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯）
18	平成 28 年 9 月 6 日	検出菌状況報告・検討、院内巡視結果報告・評価 特定抗菌薬使用状況の報告・検討

19	平成 28 年 9 月 13 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
20	平成 28 年 9 月 20 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
21	平成 28 年 9 月 27 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯）
22	平成 28 年 10 月 4 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
23	平成 28 年 10 月 11 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
24	平成 28 年 10 月 18 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
25	平成 28 年 10 月 25 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯）
26	平成 28 年 11 月 1 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
27	平成 28 年 11 月 8 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
28	平成 28 年 11 月 15 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
29	平成 28 年 11 月 22 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯）
30	平成 28 年 12 月 6 日	検出菌状況報告・検討、院内巡視結果報告・評価 特定抗菌薬使用状況の報告・検討

31	平成 28 年 12 月 13 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
32	平成 28 年 12 月 20 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
33	平成 28 年 12 月 27 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯）
34	平成 29 年 1 月 10 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
35	平成 29 年 1 月 17 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
36	平成 29 年 1 月 24 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
37	平成 29 年 1 月 31 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯）
38	平成 29 年 2 月 7 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
39	平成 29 年 2 月 14 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
40	平成 29 年 2 月 21 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
41	平成 29 年 2 月 28 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯）
42	平成 29 年 3 月 7 日	検出菌状況報告・検討、院内巡視結果報告・評価 特定抗菌薬使用状況の報告・検討

43	平成 29 年 3 月 14 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
44	平成 29 年 3 月 21 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
45	平成 29 年 3 月 28 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 院内感染防止対策マニュアルの検討 手指消毒薬使用量確認（個人携帯）
臨時 1	平成 28 年 4 月 7 日	インフルエンザ罹患患者増加に伴う感染対策について
臨時 2	平成 28 年 4 月 12 日	インフルエンザアウトブレイクに伴う対応について
臨時 3	平成 28 年 4 月 13 日	インフルエンザ罹患患者減少に伴う面会制限解除について
臨時 4	平成 28 年 4 月 14 日	ICT 巡視結果に伴う、対策検討
臨時 5	平成 28 年 4 月 20 日	院内加湿について
臨時 6	平成 28 年 4 月 21 日	ICT 巡視結果に伴う、対策検討
臨時 7	平成 28 年 4 月 28 日	ICT 巡視結果に伴う、対策検討 実施状況の確認
臨時 8	平成 28 年 5 月 24 日	インフルエンザ罹患患者報告に伴う感染対策について
臨時 9	平成 28 年 5 月 25 日	インフルエンザ罹患患者報告に伴う感染対策について 予防投与の実施
臨時 10	平成 28 年 7 月 8 日	セレウス菌検出に伴う感染対応について
臨時 11	平成 28 年 8 月 31 日	点滴ルート白濁事例に対する原因検索と対応について
臨時 12	平成 28 年 12 月 1 日	新入職員の小児疾患ウイルス抗体価の管理について
臨時 13	平成 29 年 1 月 5 日	流行感染症について 咳エチケットの啓発と自動販売機の設置について
臨時 14	平成 29 年 1 月 19 日	入院患者のインフルエンザ罹患に伴う感染対応について 職員に対する予防投与について アウトブレイク宣言に関する検討

臨時 15	平成 29 年 2 月 1 日	インフルエンザ罹患患者報告に伴う感染対策について リハビリテーションの継続と感染対応について
臨時 16	平成 29 年 2 月 4 日	インフルエンザ罹患患者報告に伴う感染対策について リハビリテーションの継続と感染対応について再検討 予防投与実施について

4. 活動要約

- ・院内巡視（I C T ラウンド）を実施・評価し感染対策委員会にて提言
1 年を通して、評価項目に内部分の改善点なども多く抽出された。
I C T リンクスタッフのレベルが向上してきている。
- ・院内感染対策マニュアルの見直し
平成 27 年度に実施しているが、電子カルテ変更や運用変更などに伴い改訂必要箇所がある
各部門に協力を依頼し、全面的な見直しと改訂を行っていく。
- ・手指消毒について
手指消毒薬個人携帯開始に伴い、使用量確認も実施
個人・病棟における使用量の変化を可視化する事で感染予防につながっている。
- ・マスク自動販売機導入
標準予防策の遵守・家族への感染予防の協力依頼
24 時間販売の自動販売機設置

脳ドックワーキンググループ

1. 活動目的

「脳ドック」を希望する対象者のニーズに応える。もって、根治の難しい神経疾患の発生を予防する。

2. 構成員

リーダー	内沢 隆充（脳神経外科部長）		
メンバー	目時 典文（内科副部長）	萩井 譲士（内科副部長）	
	小田桐千代（外来看護師長）	川村 隆行（診療放射線技師長）	
	阿保 文子（臨床検査技師長）	今 基（医事課長補佐）	
	齋藤 理恵（医事課係長）	工藤 博人（企画運営課長）	

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 10 月 28 日	検査枠（時間）について再確認・周知
2	平成 29 年 3 月 29 日	①結果説明時の流れ【変更】 ②学会認定施設の申請【審査中】 ③来年度の委員構成について

4. 活動要約

- ・脳卒中の早期発見と予防に貢献すべく、平成 28 年度も引き続き事業を継続
- ・今年度も公立学校共済組合と「脳検診」の委託契約を更新（定員 110 名）
- ・日本予防医学協会と「脳ドック」の委託契約を更新（自動更新）
- ・日本脳ドック学会認定施設の取得を目指す

- ・平成 28 年度の実績について

実施件数 : 100 件

未実施件数 : 14 件（主な理由）

- ・体内金属有でのお断り（インプラント、ステントなど）
- ・希望日が合わずキャンセル
- ・本人より他医での受診が決まったため
- ・MR I 検査の途中で中止（閉所恐怖症のため） など

口腔ケアワーキンググループ

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける入院患者の口腔衛生の向上と維持のために活動するものである。

2. 構成員

リーダー 松山 哲子（言語聴覚室長） サブリーダー 花岡 葉子（作業療法士）
 メンバー 小堀文美子（歯科衛生士） 清水 瞳（歯科衛生士）
 伴 美紗貴（看護師） 工藤 梓（看護師） 近藤 公佳（看護師）
 板垣 充子（看護師） 木村 昌代（看護師） 木村 ゆか子（准看護師）
 小林 学人（准看護師） 五十嵐 緑（看護師） 成田 雅子（看護師）
 芳賀 沙織（准看護師） 工藤 瑞葵（看護師） 對馬 若乃（看護師）
 鈴木 敦子（准看護師）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 28 年 4 月 6 日	本年度活動計画の検討
2	平成 28 年 5 月 11 日	運用変更後の経過報告 歯科医師による口腔ケア指導報告
3	平成 28 年 6 月 1 日	経過報告
4	平成 28 年 7 月 6 日	経過報告 個別指導の運用状況評価と問題点確認
5	平成 28 年 8 月 3 日	病棟ラウンド（東棟）と結果評価
6	平成 28 年 9 月 7 日	病棟ラウンド（中央棟）
7	平成 28 年 10 月 5 日	病棟ラウンド（中央棟）の結果評価 口腔ケア手技のマニュアルについて 口腔ケアでの疑問提示と回答
8	平成 28 年 11 月 2 日	歯磨き教室の運用状況評価 歯ブラシの支持・保管方法の確認
9	平成 28 年 12 月 7 日	口腔ケア基本手技 勉強会 洗面台の清潔保持指導
10	平成 29 年 1 月 4 日	歯磨き教室の問題点抽出と解決策の提案 個別指導後の口腔アセスメントの運用確認 口腔アセスメントの問題点抽出と解決策の提案
11	平成 29 年 2 月 1 日	口腔アセスメントの運用修正 歯磨き教室のポスター案
12	平成 29 年 3 月 1 日	口腔アセスメントの運用確認 歯磨き教室の内容検討 次年度の活動検討

4. 活動要約

- ・ テンプレート運用を見直し、業務の簡略化を図った。
- ・ 院内をラウンドして評価を重ね、一定の成果が得られた。
- ・ 口腔アセスメントの運用を見直し、入院患者の経時的評価に繋げた。
- ・ 啓蒙内容の検討等、次年度の活動への問題提起ができた。

編 集 後 記

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター年報第4号（平成28年度）をお届けいたします。

第4号では、診療実績の部分で、経時的な推移がわかりやすいように平成28年度単年ではなく、平成26年度と平成27年度のデータも併せて掲載いたしました。

さて平成28年度は、財団設立50年の節目の年でした。前年度にセンターの開設10周年を記念した式典と祝賀会を行ったこともあり、事業としては創立50年誌の発行に力を注ぎました。財団設立当初のお話や黎明郷リハビリテーション病院の思い出など多くの方々からご寄稿をいただき、創立50年誌にふさわしい内容となりました。

財団としては節目の年であった28年度ですが、病院経営という面では、センターの病床稼働率が大きく低迷し、苦労の多い1年でした。その要因としては、2次医療圏域での完結した医療を目指す地域医療構想により、回復期リハ目的に西北五圏域から紹介される患者数が減少したこと、26年度の診療報酬改訂で新設された包括ケア病棟（病床）が、地域の自治体病院で次々と開設されたことが考えられました。特に夏から秋にかけての回復期リハ病棟の稼働率低下が顕著でした。そのため回復期リハ病棟の退院調整や回復期リハ病棟への他院からの直接入院、回復期リハ期限越えの入院継続などの対策を講じましたが、病床稼働率が向上したのは、年明けから年度末の頃となりました。この状況は一時的なものではなく今後も続くことが想定されるため、脳卒中診療を中心としながらも、心臓リハビリテーションや肺炎後の廃用症候群の受け入れなど、新たな試みを展開しているところです。

最後に、年報第4号の発刊にご協力いただいた職員各位に感謝申し上げます。

広報委員長 岩田 学

【編 集】弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 広報委員会

委員長	岩 田 学（副院長）
委 員	目 時 典 文（内科副部長）
	樋 口 三枝子（看護部長）
	三 浦 順 子（リハビリテーション部技師長）
	鳥谷部 翔（薬剤師長）
	立 林 修（庶務課長）

